

# とやまの古代祭祀遺跡等出土品

北高木遺跡

下佐野遺跡

出来田南遺跡

南太閣山 I 遺跡

赤井南遺跡

任海宮田遺跡

石名田木舟遺跡

小杉流団No.16遺跡

小杉流団No.19遺跡



2022年3月

富山県埋蔵文化財センター

## はじめに

当センターは、平成19年度から、本県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として、「富山県出土の重要考古資料」を13冊刊行してまいりました。今年度は第14冊として、当センター収蔵出土品の中でも古代の歴史や文化を語る上で重要な祭祀遺跡等の出土品を紹介いたします。

本書により、多くの皆様に本県の貴重な文化財に触れていただき、関心を深めていただければ幸いです。  
令和4年3月

富山県埋蔵文化財センター

## 例言

- 1 本書は、「令和3年度文化庁地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」の国庫補助金を受けて実施した、当センターの『富山県出土の重要考古資料』作成事業で作成したものである。
- 2 本書は、下記の各発掘調査報告書を元に作成した。  
『富山県大島町 北高木遺跡発掘調査報告書』1995 大島町教育委員会  
『富山県高岡市 下佐野遺跡発掘調査報告書』2011 富山県埋蔵文化財センター  
『出来田南遺跡発掘調査報告』2015 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所  
『都市計画街路七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(3)』1985 富山県教育委員会  
『水上遺跡・赤井南遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡発掘調査報告』2012 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所  
『富山県富山市 任海宮田遺跡発掘調査報告書』1996 富山県埋蔵文化財センター  
『任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅲ』2008 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所  
『富山県福岡町 石名田木舟遺跡発掘調査報告書』1995 福岡町教育委員会  
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第6次緊急発掘調査概要』1984 富山県教育委員会  
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要』1986 富山県教育委員会  
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第9次緊急発掘調査概要』1989 富山県教育委員会
- 3 本書作成にあたり、発掘調査報告書に掲載された出土品のうち、良好な残存状態でかつ重要度の高い出土品165点を選択し、遺跡ごとに新たに通し番号を付した。
- 4 出土品の図の縮尺は、1/6を基本として各図版に掲載した。
- 5 本書に掲載した地図は、国土地理院の電子地形図(タイル)に遺跡位置を追記して掲載した。
- 6 本書に掲載した出土品は、富山県埋蔵文化財センターで保管・収蔵している。

## 目次

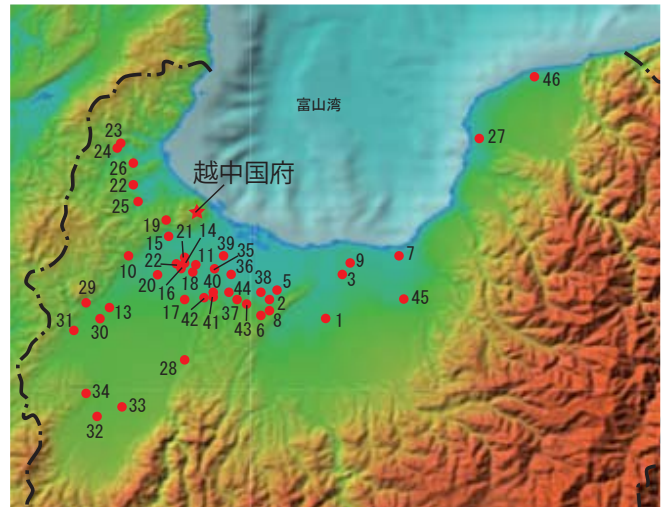
1 富山県の古代祭祀遺跡等出土品の概要	1
2 北高木遺跡出土品	3
3 下佐野遺跡出土品	8
4 出来田南遺跡出土品	10
5 南太閤山Ⅰ遺跡出土品	12
6 赤井南遺跡出土品	13
7 任海宮田遺跡出土品	15
8 石名田木舟遺跡出土品	18
9 小杉流団No.16遺跡出土品	20
10 小杉流団No.19遺跡出土品	21

表紙 下佐野遺跡墨画土器

裏表紙 石名田木舟遺跡阿弥陀三尊像3D

# 1 富山県の古代祭祀遺跡等出土品の概要

本書で対象とする古代とは、律令国家が形成される7世紀頃から、律令制が実態を失う10世紀頃までの飛鳥・奈良・平安時代とする。この頃日本列島では、奈良や京都に都を置き、中国の制度（律令）にならい天皇を中心とした政治を行っていた。中央政府は政治だけでなく、中国や朝鮮などの文化を積極的に吸収しながら律令国家としての支配を進めており、律令祭祀が行われる一方、仏教や道教などがこの流れの中で伝わることになる。富山県でもこうした政策が反映された出土品がみられる。



第1図 富山県の主な古代祭祀遺跡等位置図

律令祭祀とは、8世紀初めに完成した『大宝令』の「神祇式」に定められた国による祭祀のことで、具体的な内容については10世紀に成立した『延喜式』によって知ることができる。天皇を中心とした国の維持と繁栄のためのまじないであり、長雨や地震などの天災や、疫病などを「穢れ」や「災い」とし、これらを取り除くための「祓い」を行う大祓が律令祭祀の中でも重要な行為と考えられた。律令期の祭祀具には7世紀末から8世紀初めに始まる律令祭祀を反映した人面墨書土器、人形・馬形・鳥形などの木製模造品と、古墳時代からの伝統をひく勾玉などの玉類や、土製模造品などがある。富山県内では、人面墨書土器が10遺跡32点出土するなど、早い時期から国主導による律令祭祀行為が定着していたことがうかがえ、祭祀遺物の組み合わせから国、郡、村といった官衙のレベルにより使い分けがされていると考えられている。

また、富山県内では集落内のお堂のような小規模なものも含め、古代の寺院の調査例は少ないが、7世紀中頃以降に瓦塔や金属製仏具を模した須恵器などの生産が始まり、一般集落でもこれら仏教関連遺物が出土する。祭祀遺物出土遺跡の約半数で、仏教関連遺物が出土しており、祭祀と仏教とが重層的に集落に浸透していたものと考えられる。

現在、富山県内で発掘調査が行われ古代の祭祀遺物・仏教関連遺物等を出土した遺跡は約100遺跡ある。このうちまとまった遺物が出土した46遺跡を第1表にまとめた。本書では、古代の文化や風習を表す祭祀遺物や仏教に関連する特殊品等、精神世界を具現化した出土品に改めて焦点を当てることを目的とし、これらの中から当センターが所蔵し、かつ残存状態が良好で重要度の高い9遺跡の出土品を選定した。

位置 所在地	遺跡名	主な遺構	主な出土品	出土品の特長	性格		時期	
					祭祀	仏教関連		
1 富山市	任海宮田遺跡	市B	瓦塔			○	8世紀後半～9世紀後半	
		センターG、溝	瓦塔、凸帯付四耳壺			○		
		C8	奈良三彩、鉄鉢形土師器、土師器深碗、墨書土器、人面墨書用小型鍋	仏教的な活動を中心とした祭祀的行為の場か。「観音寺」墨書あり。C10SX01は地鎮祭祀か？	○	○		9世紀後半～
		C13 SX01	ウマ上下顎臼歯	清西岸出土		○		9世紀前半
		C20 SI05	須恵器(双耳杯)			○		9世紀中頃
2 砺波南遺跡	市E	鐘鈴				○	9世紀前半	
		瓦陶兼業窯	瓦、鐘鈴、土馬、透彫り製品	瓦の他に仏器を模した稜椀、鉢、香炉蓋等の仏教関連遺物や円面硯、土製権衡(錘)等の官衙的遺物も焼成。	○	○		8世紀
3 豊田大塚・中吉原遺跡	溝	人面墨書土器、木製品(人形、斎串)、須恵器、土師器	新川郡家の祭祀場か。溝出土の律令祭祀具。土師器小型甕・長胴甕があり、大小セットで使用か。			○	9世紀後半	
4 長岡杉林遺跡	掘立柱建物、井戸、溝	須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、油煙土器、瓦塔、紡錘車(鉄器)、木製品(曲物底板、モモ核)	井戸から瓦塔出土。井戸脇の掘立柱建物は瓦塔を納めた祀室か？瓦塔、緑釉火舎等、仏教的色彩の濃い祭祀の場。			○	9世紀後半～10世紀中頃	
5 花ノ木C遺跡	溝状遺構	人形、斎串、人面墨書用土器				○	8世紀後半	
6 開ヶ丘中遺跡	礎石建物、掘立柱建物、堅穴建物、土師器窯、土坑、焼壁土坑、道路、溝	須恵器(仏器・稜椀、鉄鉢、水瓶、多嘴瓶)、土師器、鉄製品、土製品(瓦塔、陶製九輪)、石製品、漆紙	仏教関連遺物集中地区と南側礎石建物・掘立柱建物の分布域が重なる。村落内寺院か。			○	8世紀後半～9世紀後半	
7 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡	井戸	土師器、斎串、円硯	井戸祭祀			○	7世紀後半～8世紀前半	
8 向野池遺跡	掘立柱建物、井戸、土師器焼成遺構	須恵器、土師器、瓦塔	瓦塔は井戸・土坑等から出土。井戸出土は焼き損じ等の廃棄によるものか。円形基礎の瓦塔。			○	9世紀前半～10世紀前半	
9 米田大覚遺跡	井戸	須恵器、土師器、土製品、木製品(刀形、斎串、棒状、曲物底板、下駄)、石製品	須恵器を中心とした井戸祭祀。呪句、吉祥句、則天文字等の墨書土器あり。			○	9世紀中頃	

第1表 富山県の主な古代祭祀遺跡等出土品一覧1



所在地	遺跡名	主な遺構	主な出土品	出土品の特長	性格		時期
					祭祀	仏教関連	
高岡市	10 麻生谷遺跡	井戸	須恵器、土師器、木製品(斎串、箸、挽物、扇子骨、曲物柄杓)	井戸祭祀。井戸廃絶時期は9世紀末～10世紀初頃か。	○		8世紀後半～
	11 井口本江遺跡	掘立柱建物、井戸、溝	須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器	埴碗、鉄鉢型、水瓶等の仏教関連遺物	○	○	8世紀後半～
	12 石名瀬A遺跡	9区:溝 10・11区:溝	人面墨書土器、土師器、須恵器	土師器壺。破片のため全容不明。3面か。	○		8世紀後半～9世紀
	13 石名木舟遺跡	井戸、掘立柱建物、土坑	瓦塔(阿弥陀三尊像、卍高欄部材、屋蓋破片)、仏具関連(奈良三彩、香炉、火舎、水瓶、合子)、鉄鉢型須恵器、多嘴瓶、木製品(斎串)	阿弥陀三尊像は瓦塔初層内陣にはめ込まれたものか。中央に阿弥陀如来坐像、右脇侍に勢至菩薩立像、左脇侍に観音菩薩立像。兵庫三木市正法寺山遺跡出土品と同范。財田B2地区包含層でも瓦塔2点出土しており、周辺に仏教関連施設が想定。掘立柱建物の柱から斎串・須恵器・土師器出土。地鎮等の祭祀か。	○	○	7世紀後半～9世紀
	14 下佐野遺跡	センターB:溝 センターC:溝、土坑 センターD:溝	人面墨書土器、須恵器、土師器 須恵器、土師器、米・豆入りザル状織物 人面墨書土器、墨画土器、木製品(斎串、人形、馬形、鳥形、舟形、隅物形)	人面墨書は3面か。不明瞭 土器を用いた祭祀か? 数回にわたり溝を改築か。人形等木製祭祀具を中心とする。木製祭祀具の人形は大製品が多くみられる。	○	○	8世紀後半～9世紀後半
	15 須田藤の木遺跡	豊原:溝または川跡 湿地帯	須恵器、土師器、木製品(人形、木筒)、瓦木製品(斎串、剣形、弓形、ささら)	溝層下層出土。肩帽子・筒・衣服を表現した可能性のある壺 水辺の祭祀。荘園または郡衙関連遺跡か。建物群東側に広がる低湿地から木製祭祀具が出土。	○	○	8世紀後半～10世紀 8世紀中頃～10世紀
	16 諏訪遺跡	溝	須恵器、土師器、木製品(人形)、和同開珎	東北方向の溝出土。隣接する下佐野遺跡と関連か。地鎮等の祭祀に関連することが多いとされる和同開珎出土。	○		8世紀代
	17 常国遺跡		瓦塔、鉄鉢型土器	屋蓋部破片。村落内寺院等が想定。包含層出土	○		8世紀後半～9世紀
	18 出来田南遺跡	大溝	須恵器、土師器、人面墨書土器、木製品(斎串、馬形、舟形、斎串or刀形、剣形、人形or隅物形、呪符木簡、火鏡口、埴物皿)	人面墨書土器は破片のため全容不明。7個以上。復元したものは4面。呪符木簡は記号の下に「急々如律令」、裏面は天地逆に「五六口口」。畝内初層。	○		8世紀後半～9世紀前半
	19 堂前遺跡	四面底掘立柱建物	須恵器、黒色土器高杯、鉄斧、刀子	山間の埋没谷上の平坦面に立地。四面底の掘立柱建物1棟単独。祭祀関連の建物(堂)か。	○		7世紀後半
	20 中保B遺跡	掘立柱建物、溝、井戸	土師器、灰釉、木製品(斎串、人形、馬形、舟形、樽形)、鉄鉢	祭祀遺物は東溝から出土し、井戸周辺、北側建物群東側、東側建物群南側の3箇所に集中地点が認められる。鉄鉢や完形に近い木製皿類は祭祀に用いられた可能性あり。	○		8世紀中頃～11世紀
21 東木津遺跡	市道清水町:竪穴建物	板状加工木	短冊形板材で、切斷「キリ」一定方向への工具痕等を残す。都市道路地区SD60出土斎串と法量や特性と符合することから、斎串または人形の未成品の可能性がある。	○		8世紀後半～9世紀前半	
	都市計画道路:溝・橋梁護岸施設	土師器、須恵器(双耳杯)、鉄鉢型土器、木製品(斎串、人形、刀形、琴形、ささら状、樽形、木筒)、瓦塔、銅銭(和同開珎含む)、モモ核	溝と道路跡の延長交差点付近に護岸施設があり、この張り出し部を中心に祭祀遺物が多く出土。水辺での祭祀。また、瓦塔、仏教用語「悔過」墨書4点、「莫多大神宮寺涅槃浄土 米入使」の木簡等があり、仏教儀礼や村落内寺院の存在を想定。	○	○	8世紀後半～9世紀前半	
	都市計画道路:凹地	木製品(斎串、人形、舟形、馬形、鳥形、刀子形、琴柱形)	水辺の祭祀	○		8世紀後半～9世紀前半	
	都市計画道路:ピット	斎串	SD60橋梁護岸施設に関連した門・鳥居状施設と考えられるピット内出土。呪符または地鎮祭祀か。	○		8世紀後半～9世紀前半	
22 水見市	1 上久津呂中屋遺跡	井戸、掘立柱建物、土坑、自然流路	土師器、須恵器(鉄鉢型、碗、壺)、モモ核	仏教関連遺物。いくつかの井戸では、井戸側等構造物を取り外したのちに埋め戻す。埋納儀礼を行っていたか。	○	○	8世紀～9世紀
23 小窪瓦窯跡	窯	丸瓦、平瓦	丸瓦、平瓦、須恵器	小窪廃寺造営の瓦窯跡	○		7世紀末～8世紀前半
24 小窪廃寺跡	自然流路	須恵器、土師器、和同開珎、瓦塔	塔高30m以上の五重塔をはじめとする瓦葺の堂舎が立ち並ぶ古代寺院跡。安努君氏による造営の可能性。	○		7世紀末～8世紀前半	
25 悠瀬浦之前遺跡	自然流路	須恵器、土師器、和同開珎、瓦塔	地鎮等の祭祀に関連することが多いとされる和同開珎や、灯明器とみられる油煙着土器、瓦塔などが出土。付近で仏教行事が行われていた可能性。	○	○	8世紀後半～10世紀前半	
26 中尾新保谷内遺跡	土坑	土師器杯、黒色土器鉄鉢、須恵器	鉄鉢・杯・灯明具ともに口縁を上にした状態で出土。平安時代後期作とされる金銅宝冠阿弥陀如来坐像出土の泉中尾廃寺に隣接。埋納例との関連は不明だが、仏教活動が盛んな地か。	○		8世紀～9世紀	
27 黒部市	掘切遺跡	F地区	人面墨書	土師器壺または坏底部に鼻・髻を墨書。人面赤彩。	○		8世紀～9世紀
28 砺波市	福山窯跡	窯	須恵器(双耳杯、鉄鉢型)、瓦塔、土馬、土鈴	祭祀関連遺物、および仏教的影響の強い遺物の両者を生産	○	○	8世紀後半～
29 小矢部市	桜町遺跡	溝	須恵器、土師器、土馬、木製品(斎串)	墨書土器には「長岡」「長岡神祝」「大祝」「祈宜」「大社祝」などの地名・職名があり、延喜寺神名帳にある長岡神社に関連する可能性。また、油煙着土器や、土馬、斎串なども出土。水源地でもあるた。	○		8世紀～9世紀中頃
30 31 32 33 34	30 芹川遺跡	直交する溝2条に囲まれた範囲	瓦塔、鉄鉢型土器、油煙土器(灯明具)	溝で囲まれた範囲で仏教関連遺物集中。仏教色の強い宗教的区	○		9世紀後半
31 32 33 34	31 塘生南遺跡	溝、土坑、掘立柱建物	須恵器、人面墨書土器、陶棺、土馬、土鈴	土師器鉢。人面不明瞭。	○		8世紀初め
32 33 34	32 梅原落戸遺跡	掘立柱建物、土坑	土製勾玉、獣骨、炭化米、種子	高床倉庫とみられる掘立柱建物下の土坑出土。倉庫築時の祭祀か。奈良時代の土製勾玉は北陸初例。	○		8世紀前半～
33 34	33 高瀬遺跡	溝	瓦塔、須恵器浄瓶、鉄鉢型土器	仏教関連遺物	○		9世紀初頃～
34	34 安居窟跡群	須恵器窟、円墳	須恵器(金属器模倣鉢)、陶棺、土馬	須恵器窟で生産された祭祀関連遺物。飾り馬	○	○	7世紀後半
35 射水市	35 赤井南遺跡	道路、道路側溝、整地	土師器、須恵器(水瓶)、人面墨書土器	官道沿線の東西道路SF1と南北道路SF2の交差点付近の整地上面で土師器板を用いた土器祭祀。側溝岸から人面墨書土器、水瓶等出土。道路沿での「道業祭」か?	○		8世紀後半～9世紀末
36	36 赤田I遺跡	2003:溝 8区:溝	須恵器、土師器、緑釉陶器、木製品(斎串、人形、馬形、鳥形、舟形、刀形、隅物形、樽形、火鏡口、箸、柄杓、紡織具、宝珠形、独楽、埴物皿、棒状)、獣骨、被熱した須恵器、土師器、木製品(斎串、馬形、紡織具、埴物皿)	テラス状張り出し、堰等を持つ溝から、多量の土器・木製品が出土。水辺の祭祀。土器類は未使用品、使用痕の少ないもの、完形品が多く、入れ子状に重ねた状態のものがある。緑釉陶器・黒色土器が集中的に出土する地点がある。 2003溝SD01と同一の大溝か。水辺祭祀。糸絆、完形品に近い木製埴物皿、須恵器・瓶など祭祀遺物の可能性。	○		8世紀後半～9世紀後半
37	37 天池C遺跡	須恵器窟、炭窯、製鉄炉	須恵器(燭台、鉄鉢型)、土鈴	燭台、鉄鉢型等の仏教関連遺物の生産	○		7世紀前半～
38	38 黒河尺目遺跡		鉄鉢型土器	仏教関連遺物	○	?	8世紀前半～
39	39 北高木遺跡	溝、井戸	人面墨書土器、墨書土器、須恵器、土師器、木製品(斎串、人形、馬形、鳥形、舟形、鉢形、隅物形、琴形、摺りさら、編木ささら、木筒)、鉄製品(刀子、鎌、鉄矢、鎧)	越中国府の祭祀場か。C・D地区:7世紀末～8世紀は須恵器・人面墨書土器・大量の木製祭祀具。8世紀末～9世紀初は土器を中心とした土器祭祀。B地区:奈良時代後半。須恵器・斎串・人形による祭祀。須恵器は杯を中心とし、饗応後に破砕したものを用いたか。破損したもの、打ち欠けられたもの多量。墨書土器には施設名、役職名、記号	○		7世紀末・8世紀初～10世紀
40	40 小杉流通業務団地内No.16遺跡	須恵器窟、竪穴建物、谷	土製品(土馬、鳥形、印仏)木製品(舟形)、銅、墨書土器、鉄鉢型須恵器	谷部から土馬が出土。木製舟形と共伴。鳥形は写実的。頭を細く打ち欠いて廃棄。印仏は粘土板に陰刻した素焼きのもので、表面に把手がつく。瓦やセンの押出仏の押し型か?「小橋寺」の墨書土器あり。仏教関連遺物合わせて、寺院との関わり深いか。	○	○	8世紀前半～中頃
41	41 小杉流通業務団地内No.19遺跡	竪穴建物、掘立柱建物	陶製相輪	約60片出土。九輪・撥骨・伏鉢・露盤の各部材がある。	○		8世紀中頃～
42	42 小杉流通業務団地内No.21遺跡	須恵器窟、瓦陶業窯、竪穴建物、谷	土馬	瓦・土師器と共伴。谷部から土馬出土。水辺の祭祀。	○		7世紀中頃～
43	43 野田池A遺跡	須恵器窟、炭窯、製鉄炉	須恵器(鉄鉢)	内面にターレット状の油煙が付着した須恵器杯(灯明具)あり。鉄鉢型等仏教関連遺物を生産。	○		8世紀後半～
44	44 南太閤山I遺跡	自然河川跡	須恵器、土師器、青磁、人面墨書土器、木製品(斎串、壺、皿)	谷間・川支流とみられる川跡出土。谷間の湧水が流れ出した自然流路に土器・祭祀具を投棄した長期的な祭祀場。5世紀中葉が開始期か。人面墨書土器のうち、土師器小型壺は4面、須恵器杯は3面	○		9世紀前半～
45	45 立山町 辻遺跡	自然流路	土師器、須恵器、木製品(斎串、箸、碗、皿、木筒)	青灰色砂質土層出土	○		8世紀前半～
46	46 入善町 じょうべのま遺跡	掘立柱建物、溝	須恵器、土師器、墨書土器、緑釉陶器、灰釉陶器、木製品(馬形、人形、木筒)	スズ製の板材。片面に目・たてがみ・骨が墨書きされる。脚部欠損。土馬と似た様相。人形は足部のみ。使用済みの木筒を舟形に削り、斎串に転用したとみられるもの2点。	○		8世紀後半～10世紀

第1表 富山県の主な古代祭祀遺跡等出土品一覧2

## 2 北高木遺跡出土品 (富山県射水市北高木)

- 8世紀後半～10世紀：土製祭祀具6点 (人面墨書土器3点、人面墨書用土器2点、赤彩暗文土器1点)、木製祭祀具45点 (人形12点、馬形1点、鳥形1点、舟形7点、琴形1点、鏃形2点、陽物形2点、ささら8点、齋串10点、木皿1点)  
金属製品3点 (鋏先1点、鏃1点、鑰1点)  
文字資料・その他 23点 (墨書土器18点、木簡4点、版木状木製品1点) —

### (1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は射水平野西部、庄川右岸の沖積低地に立地する。遺跡は東側を神楽川が北流しており、標高 3～4mを測る水田地帯にある。平成 4(1992)～平成 6(1994)年の第 1～3 次の発掘調査で、掘立柱建物、井戸、溝が検出された。B～D地区からは 8 世紀後半～10 世紀の人面墨書土器、土師器、須恵器、人形や馬形、舟形などの木製祭祀具や木簡、版木などが出土している。

出土品はB地区SD01や蛇行するC・D地区SD78・SD100から出土した人面墨書土器、赤彩暗文土器、人形、馬形、舟形、齋串などの多種多様な木製祭祀具で、人面墨書土器と木製祭祀具による祭祀から、土器祭祀へと祭祀具の変遷を見ることができる。長期間にわたり継続的に営まれており、地方の祭祀行為の状況を示す重要な資料である。出土祭祀遺物は、『延喜式』に定められた 6 月晦日大祓に要する祭祀具に対応しており、遺跡で行われた祭祀は大祓によるものと考えられ、遺跡の北西約 5.7kmの高岡市伏木に置かれた越中国府の祭祀場と想定される。また、墨書土器のほかに出挙木簡を含む 10 点の木簡が出土しており、多様な祭祀遺物と共に多くの文字資料の存在は北高木遺跡のもつ公的な性格を強く示すものと考えられる。これらの文字資料は古代富山を物語る貴重な資料であることから、あわせて選出した。

### (2) 出土品各説

①土製祭祀具 (1～6) 1～3 は人面墨書土器、4・5 は人面墨書用土器、6 は赤彩暗文土器。人面墨書土器は自分の顔または災厄神を描いたもので、紙で蓋をして底に穴を開け、息を吹き込んで穢れを閉じ込めたと考えられる。1～5 はほぼ同一の法量を測る小型甕。1・2 は 2 面、3 は 3 面に人面が描かれ、眉・目・鼻・口・髭・耳が表現される。1 は底部穿孔。4・5 には人面は描かれないが、1～3 とほぼ同一の法量であり、4 は体部外面に墨痕



第 2 図 北高木遺跡位置図

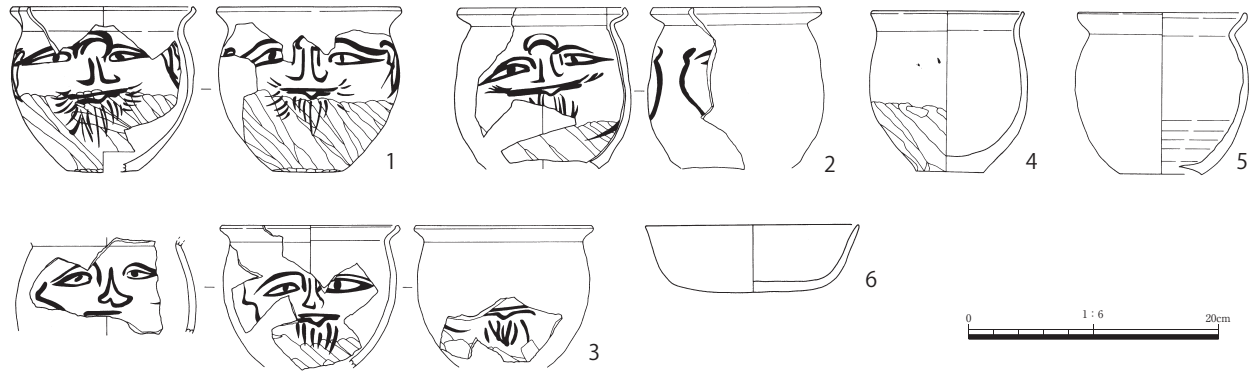


写真 1 北高木遺跡 D 地区全景 (南西から)



第 3 図 北高木遺跡調査区位置図





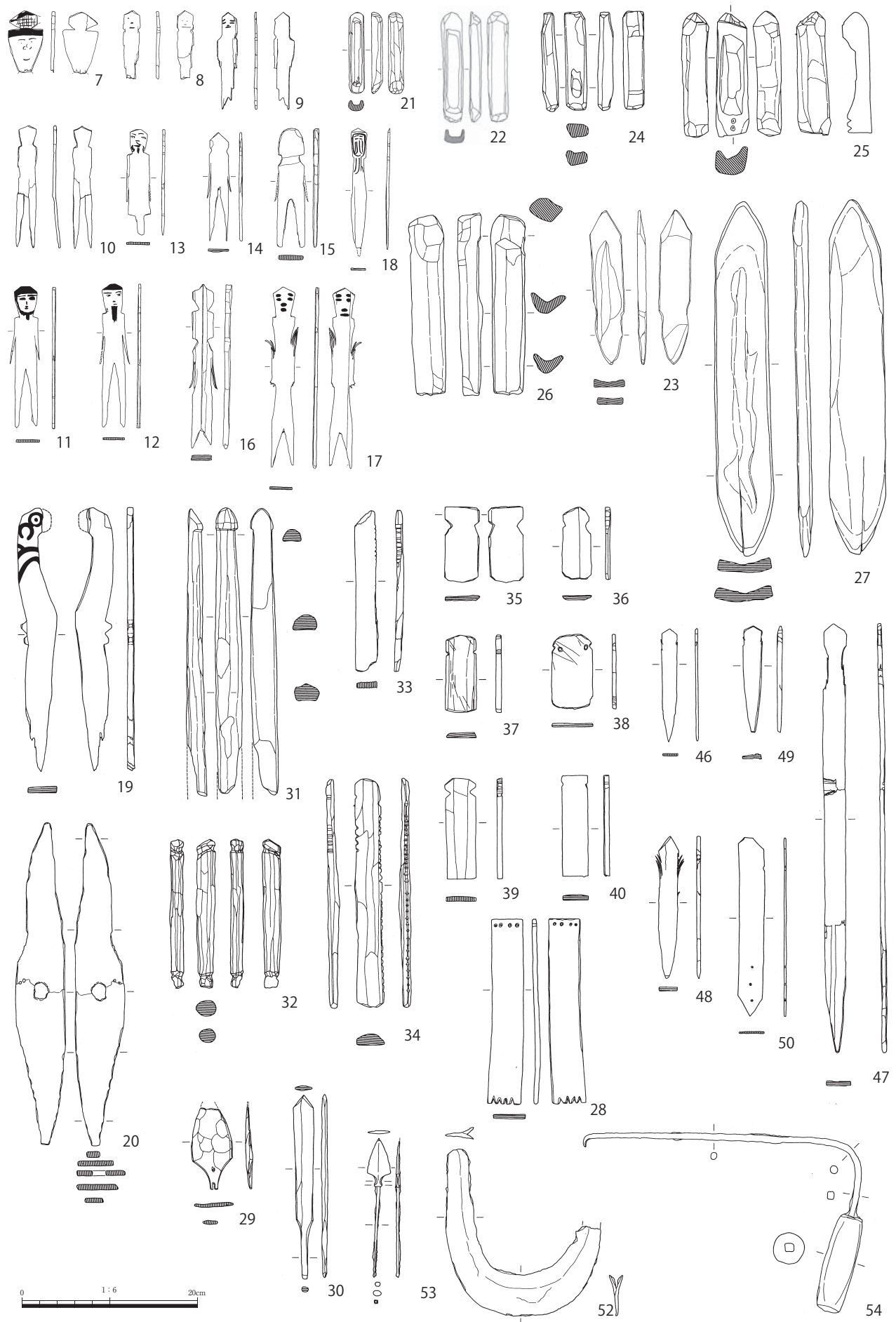
第4図 北高木遺跡出土遺物1 (1/6)

があること、5は底部穿孔していることなどから、人面墨書用土器と考えられる。6は赤彩椀で、内面に放射状暗文が施される。

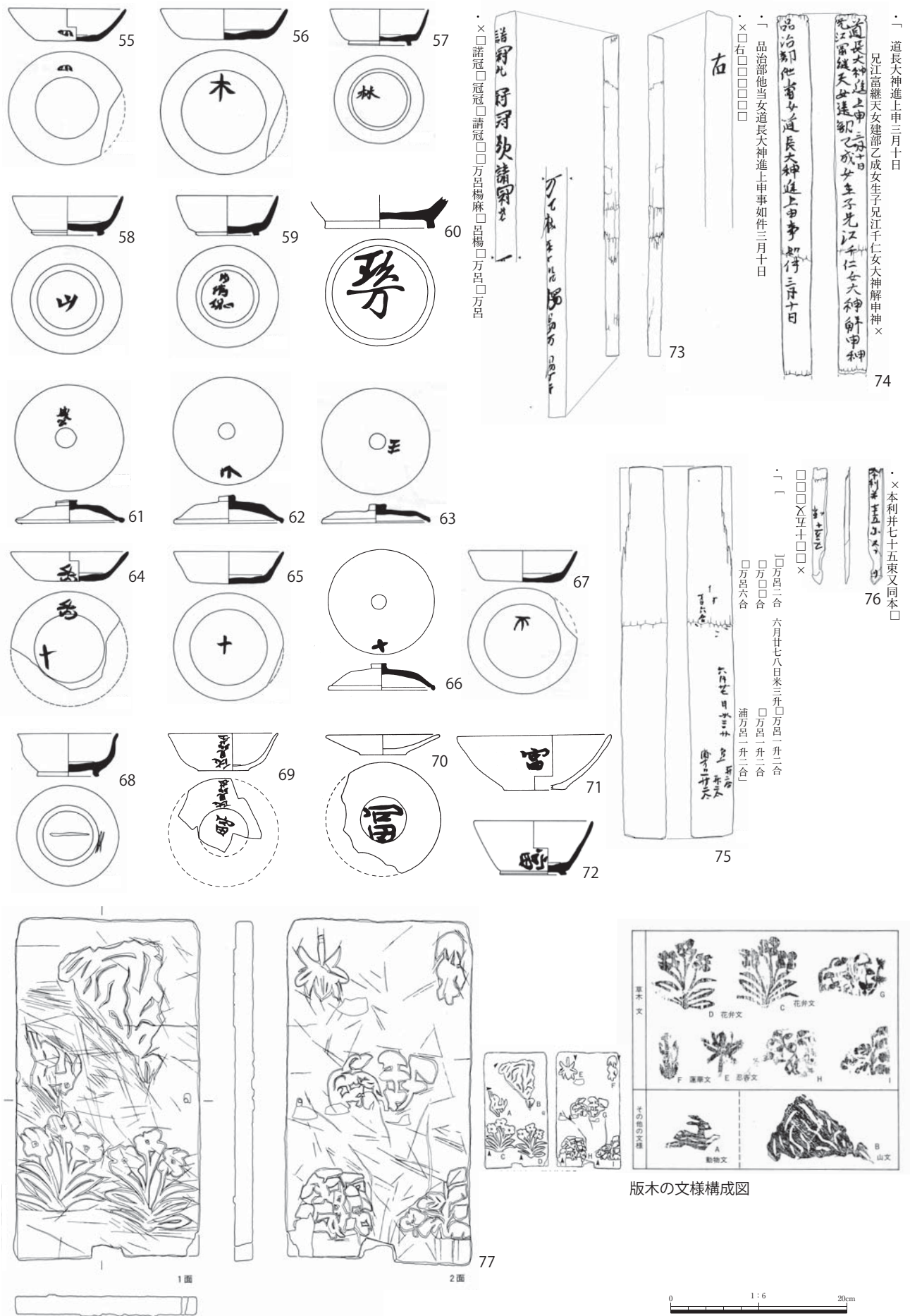
②木製祭祀具 (7~51) 7~18は人形、19は馬形、20は鳥形、21~27は舟形、28は琴形、29・30は鏃形、31・32は陽物形、33・34は摺りささら、35~40は編木ささら、41~50は斎串、51は木皿。人形は薄い板を人の形に切り抜いたもので、災厄を避けるための祓い物の一つ。7~10はSD01、11~18はSD100出土の人形。7は大型品の頭部で、顔と冠を墨書きしたもので、残存長6.8cm。7~9・11~13・17・18は顔や冠を墨書きする。15は厚みのある人形で、頸部に色調変化がみられ、布や樹皮などを巻いていた可能性がある。19は鞍を作り出した飾り馬で、片面に墨書きで頭部を表現する。馬形は人間の穢れを負った人形を運ぶためのもの、水神への捧げもの、神の乗り物などと考えられる。20は鳥形。中央に径約2cmの円孔があり、接合部に一对の小さな留め孔と考えられる孔があく。鳥は神の乗り物、魂を運ぶものとされる。舟形は流して穢れを払うと言われ、21・22・24~26は丸木舟形。24は未成品で、内面の挟りが船尾にのみ観察される。28は琴形。上部に糸通しの孔が4つ穿孔され、下部は対になるよう4つの刻みがある。琴は神託や魂を鎮める、あるいは魂を揺り動かし霊力を活性化させる「たまふり」に欠かせないものと考えられる。29・30は鏃形で、29は基部に穿孔と切り込みがあり、着柄が想定される。両面とも丁寧なケズリ。30は鏃の部分が長く基部に向かい細くなる槍状のもので、31は陽物形。丁寧なケズリ整形で、断面は半円形。陽物形は男性器をかたどったもので、子孫繁栄の象徴。33・34は側面に連続する刻みをもち、すり合わせて音を出す摺りささらと考えられる。35~40は長方形の板材の上部に対になる刻みを加えた付札状木製品で、数枚を束ねて音を奏でる編木ささらと考えられる。ささらの音は魔除けとされる。41~50はSD100出土の斎串。遺跡全体の斎串の出土点数は279点を数える。斎串は地面に挿し立てて祭りの場の結界に用いたと考えられる。40~48は薄い板材の上端を圭頭状、下端を剣先状に整形し、側面上部に削りかけを施す。47は48.4cmの大型品。50は上下端が同じような鈍角で構成されるもので、下部に等間隔で並ぶ3つの穿孔がある。51はSD100出土の白木の皿。薄手で丁寧な作り。

③金属製品 (52~54) 52は鋏先、53は鏃、54は鑰。52は鋏先のみ出土。『延喜式』に大祓いの祭器の一つに鋏があり、祭祀具として用いられたと考えられる。53は全長16cmを測る完形の鏃、木製祭祀具として鏃形が出土していることから、祭祀具と考えられる。54は断面円形の鉄製の棒をL字形に折り曲げ、端部を鉤状に曲げる。木製の柄が残存する。石川県七尾市の印鑰神社では国衙の公印と倉庫の鑰が祭神として伝わっており、これも祭器であったと想定される。

④文字資料・その他 (55~77) 55~72は墨書土器。55~59・64・65・67・68・72は須恵器杯、60は須恵器壺、61~63・66は須恵器杯蓋。69・71は土師器椀、70は土師器皿で、69は底部外面に「富」、体部に逆位で「佐見御庄」、70は底部外面に「富」、71は体部に「富」が書かれる。SD100出土で、墨書、刻書により数字や「玖万」「成公」などの人名、「木」「林」「山」などの物象名、官位、施設名や則天文字など多様な文字が書かれ、判読不明なものも含め約120点が出土している。「十」や「×」は封の意味合いをもち、埴輪にもみられる。



第5図 北高木遺跡出土遺物2 (1/6)



第6図 北高木遺跡出土遺物3 (1/6)



文字が普及する 8 世紀以降は魔除けの記号のいくつかを文字が代用するようになると考えられ、文字そのものが呪力をもつと信じられた。67 のように口縁など一部を打ち欠いて祭祀具としたものがみられる。また、S D 01 出土の須恵器は破片が多く、溝内の広範囲にわたり出土する傾向にあり、祭祀行為の中で故意に破碎された結果と考えられている。

73～76 は木簡、77 は版木状木製品。73 は長辺 52 cm の短冊状の習書木簡<sup>しゅうしょもつかん</sup>で、表面の文字が左側に寄っており、欠損の可能性がある。「安万呂」と「麻万呂」もしくは「楊万呂」という二名の名前、「冠」の文字が判読できる。「冠」の文字は奈良県藤原京跡、静岡県白山遺跡で「加冠」が確認されているが、全国的にも少なく、73 の「請冠」の表現は非常に稀な表現である。74 は S D 78 出土の習書木簡で、下端は欠損しており、形状は不明。上端側面には一対の切り込みがある。表面は「道長大神進上申三月十日 兄江富継天女建部乙成女生子兄江千仁女大神解申神」、裏面は「品治部他当女道長大神進上申事如件三月十日」の 54 文字が記載され、固有名詞の「道長大神」と「兄江富継天女」「建部乙成女」「兄江千仁女」「品治部他当女」の四名の名前、「三月十日」という日付が見取れ、複数の女性が道の神に 3 月 10 日に願ったことが判る。「道長大神」は遺跡の北側、直線距離約 300m に所在する道神社との関連が想定され、「三月十日」は道神社では琴平祭の例祭日にあたる。75 は帳簿用木簡<sup>ちょうぼうもつかん</sup>で、「浦万呂」の他五名の名前と「六月廿七八日」「三升」などの日付・数量を示す記述があり、米の分配を示すと思われる。76 は S D 01 出土の出挙木簡で、表面に「本利并七十五束又本利」、裏面に「□□又五十□□□」とあり、裏面は表面に対し逆方向に記述される。貸し付けた種籾 50 束で利息が 25 束(利率 50%)、併せて 75 束となることが判り、利率 50% であることから、公出挙であったことがわかる。

77 は版木状木製品で表裏両面にウサギ、山、草花などを浮き彫りにしたクリの柁目材<sup>まさめざい</sup>である。下端に抉りと長辺中央に穿孔が 1 箇所あり、他の部材の転用品の可能性もある。表面にウサギ(A)、山または岩(B)、花卉文(C・D)、裏面に忍冬文(E)、蓮華文(F～I)が配される。裏面は 5 つの文様が均等に配されるが、E・F は天地逆である。C・D・G は正倉院宝物などに類例がみられる。版木に文様を彫り、染料をのせて布に摺り写す古代の染色技法のひとつである摺文<sup>すりもん</sup>に用いた版木と考えられる。77 の大きさは長辺 38 cm で、古代の租庸調<sup>そようちょう</sup>で定める布の約二分の一の大きさ(約 1 尺 2 寸)であることから、庸調布の規格を考慮したものと推定されている。



写真 2 北高木遺跡出土遺物

### 3 下佐野遺跡出土品 (富山県高岡市佐野)

— 8世紀後半～9世紀後半：土製祭祀具4点（人面墨書土器3点、馬墨画土器1点）、木製祭祀具15点（馬形1点、人形11点、齋串2点、木皿1点） —

#### (1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は庄川扇状地扇端部、千保川と祖父川により浸食・形成された佐野台地上に位置する。標高は10～20mを測る。佐野台地には、多くの遺跡が所在するが、とりわけ弥生時代中期～古墳時代前期と古代の2時期は県内屈指の遺跡が集中する。

下佐野遺跡は平成19(2007)年～21(2009)年の調査で、掘立柱建物、溝、道路状遺構などが検出された。旧河道や溝から人面墨書土器や、人形・馬形・鳥形・舟形・齋串などの豊富な木製祭祀具が出土し、8世紀後半～9世紀後半の祭祀場であったと考えられている。隣接する石名瀬A遺跡、下流に位置する東木津遺跡とは一連の遺跡と考えられ、下佐野遺跡を中心とした一帯は射水郡布師郷の村落内祭祀場であったと想定される。

出土品は、人面墨書土器、馬の墨画土器、人形・馬形・齋串などの木製祭祀具であるが、なかでも馬を描いた墨画土器は全国的にも希少な資料である。

#### (2) 出土品各説

①土製祭祀具 (1～4) 1～3 は人面墨書土器、4 は墨画土器である。1・2 はS D015 出土で木製祭祀具は伴わない。法量がほぼ同一の土師器甕で、人面は3面に描かれる。眉・目・鼻・耳・髭が表現される。目や長い髭など表現に共通性がみられ、同一の書き手によるものと考えられる。3はS D002出土の小型甕で木製祭祀具が共伴する。人面は4面で、眉・目・髭が描かれる。底部穿孔の可能性はある。4は3の人形など木製祭祀具と共にS D002 から出土した小型甕で、人面墨書土器と同形態である。2面に馬が墨画される。鞍を付けた飾り馬で、両足を揃え広げたフライングギャロップと呼ばれる宙に浮いた姿勢をとるとみられる。穢れを込めて流す人面墨書土器と神の乗り物、穢れを運ぶものといった馬形や土馬の両方の性格を併せ持つと考えられる。

②木製祭祀具 (5～19) 5は馬形、6～16は人形、17・18は齋串、19は木皿で、S D002出土の木製祭祀具である。5は両面に墨書で細部を表現した飾り馬で、腹部分に切り込みがあり、台を付けたとみられる。6～16は人形で、6・8・9は墨書により顔・胸を表現する。10cm大のものと30cmを超えるものがある。越中国府の祭祀場とみられる北高木遺跡出土の人形がほぼ同一法量であるのに対し、下佐野遺跡の人形は頭部の表現など形態や大きさはバラエティーに富み、30cm大を超える大型品が多いことは特色の一つである。17・18は齋串。18は垂直に地面に刺した状態で出土し、祭祀行為の状態を示す可能性がある。19は割物の皿。漆の痕跡は見られず、白木の皿か。



第7図 下佐野遺跡位置図



写真3 下佐野遺跡D地区溝(南から)

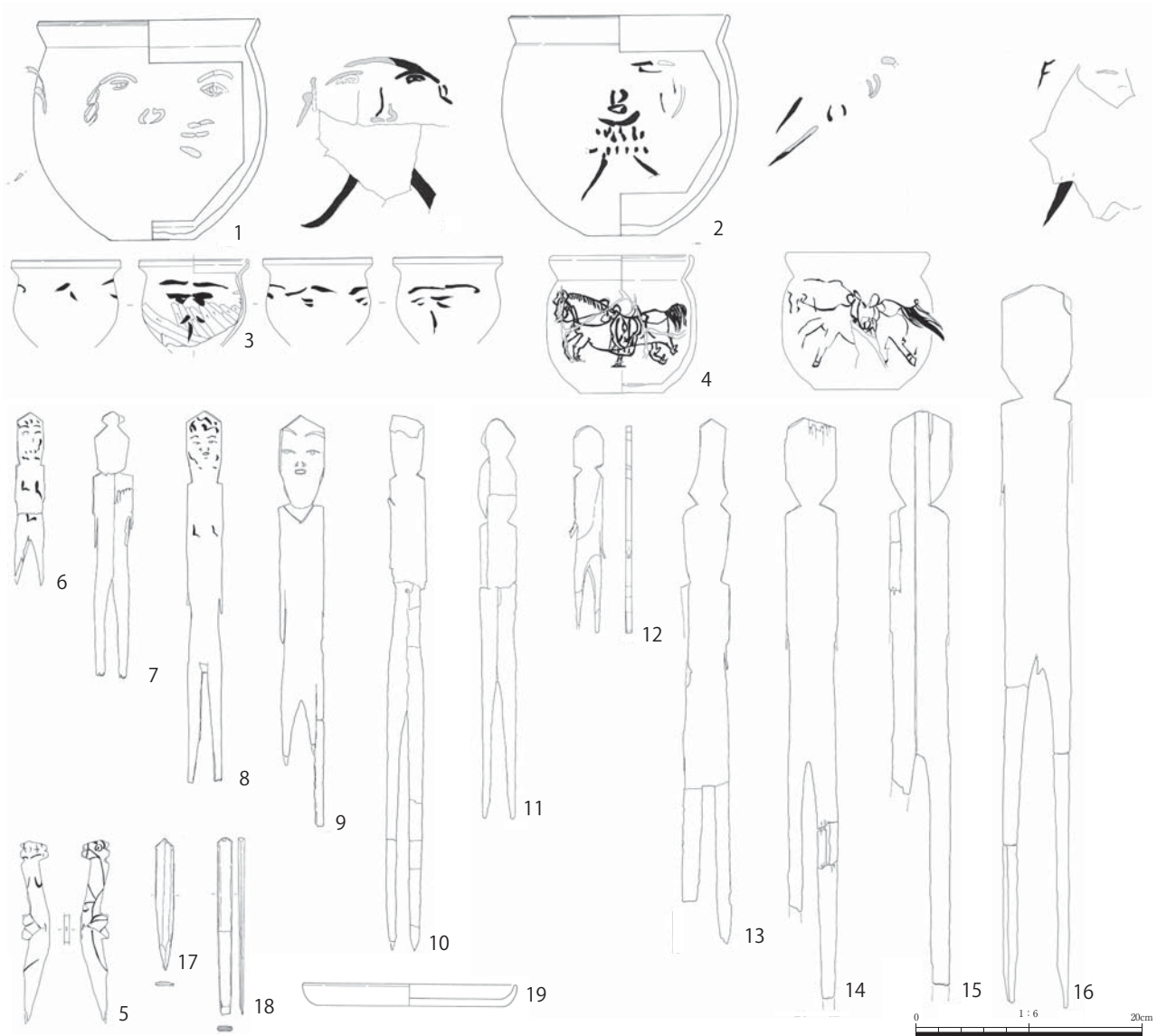


写真4 下佐野遺跡出土遺物1





写真5 下佐野遺跡出土遺物2



第8図 下佐野遺跡出土遺物(1/6)



できでんみなみ  
4 出来田南 遺跡出土品 (富山県高岡市出来田<sup>できでん</sup>)

－ 8世紀後半～9世紀前半：土製祭祀具2点（人面墨書土器2点）、木製祭祀具5点（呪符木簡<sup>じゆふもっかん</sup>1点、馬形1点、齋串1点、蓋1点、木皿1点）－

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は高岡市街地南東側の沖積低地に位置する。東の庄川、西の千保川に挟まれた微高地上に立地し、北西を<sup>じくしがわ</sup>地久子川が流れる。標高は9m前後である。平成23(2011)年、平成25(2013)年に公益財団法人富山県文化振興財団が実施した発掘調査で竪穴建物12棟、掘立柱建物58棟、柵、井戸、大溝などが検出された。大溝は幅10m前後で、南東から北西へ流れる。溝底部の砂礫層から湧水があり、木簡や容器類、木製祭祀具などが良好な状態で出土した。人面墨書土器や馬形、齋串などの律令祭祀具のほか、荷札木簡や墨書土器などの文字資料や円面硯が出土していることから、公的・官衙的な様相を持つ8世紀後半～9世紀前半を中心とした在地豪族層の関連施設と考えられ、官人やそれに近い階層の祭祀場であったと想定される。

出土品は大溝出土の律令祭祀具である。人面墨書土器は破片資料であるが7個体あり、1遺跡から出土した点数としては県内最多を誇る。律令祭祀が早い段階で定着していたことを示す重要な資料である。また、呪符木簡は古代の例としては県内出土初例である。

(2) 出土品各説

①土製祭祀具 (1・2) 1・2は小型甕。1は体部外面にヘラケズリを施す。目の一部が確認できる。2は内外



第9図 出来田南遺跡位置図



写真6 出来田南遺跡D地区全景(南から)

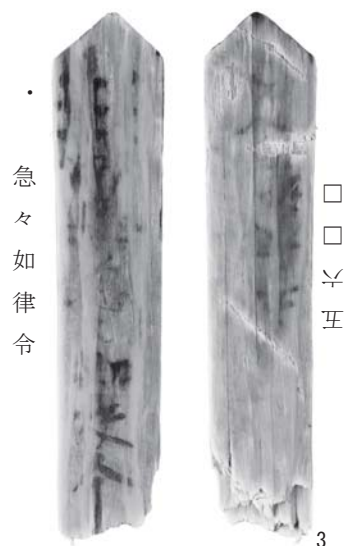


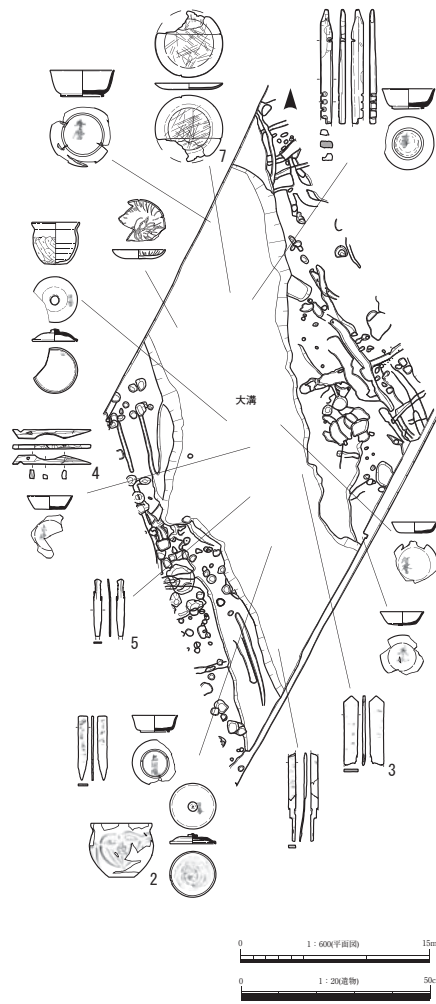
写真7 出来田南遺跡出土遺物1



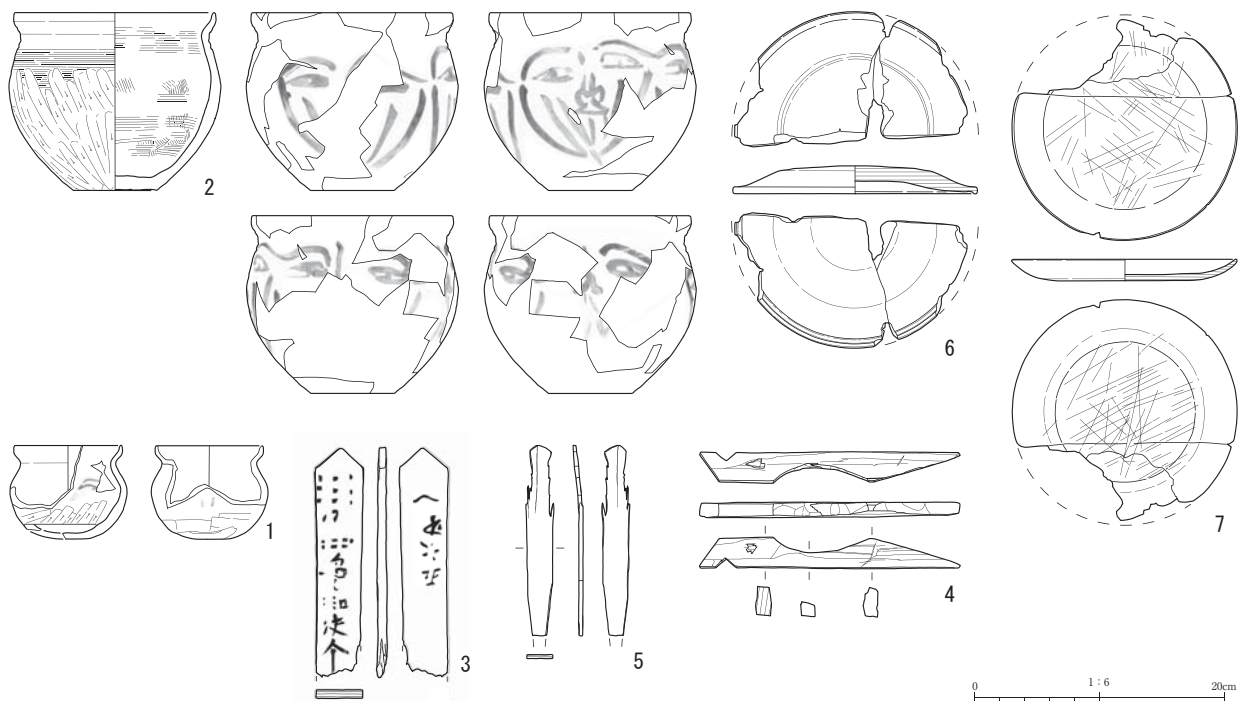
写真8 出来田南遺跡出土遺物2

面クロナデ、体部外面下半は丁寧なヘラケズリを施す。人面は4面描かれる。眉・目・鼻・口・髭が描かれ、もっともよく残る面では顔の輪郭が弧状の線で表現される。このほかの人面墨書土器のうち形態のわかるものは、2とほぼ同じ法量であるが、1は小型で、大小の組み合わせの可能性がある。

②木製祭祀具 (3~7) 3は呪符木簡、4は馬形、5は斎串、6は蓋、7は木皿である。3は表面に「急急如律令」の呪句の上に格子状とみられる符籙を描くが表面が剥離しており不明瞭。裏面は逆位で「五六〇〇」と書かれるが判読不明。道教には除災招福、延命、護身、魔除けなどの呪術があり、お札はその道具の一つ。玄関や門に貼ったり立てたりする場合、木札が使われ呪符と呼ばれる。それぞれの願いに応じて勧請する神が異なり、図形・絵・文字などで神を表す符籙・呪文・祈願文で構成される。4は扁平な板材の側面の上下を挟り、馬の側面全身像を表現したもので、鞍のない裸馬である。やや厚みのある板材の上辺に頭、背、尾を表す半円形の挟り、下辺に顎を示す三角形の切り込みを入れる。上半分には刺突のような傷が表裏両面にみられる。5は斎串。圭頭状の上端で、側辺上部に切り掛けを施し、下端は尖らせるタイプのもの。下端は欠損。6は蓋。須恵器杯蓋を模したもの。7は薄手で精巧な作りの皿。6・7の樹種はケヤキで、漆塗りの痕跡はなく、白木のもの。6・7共に、5mm前後の方形の孔が口縁部および頂部、底部に複数個あく。



第10図 出来田南遺跡遺構平面図 (1/600)



第11図 出来田南遺跡出土遺物 (1/6)



みなみたいこうやまいち  
**5 南太閤山 I 遺跡出土品** (富山県射水市南太閤山) みなみたいこうやま

— 8世紀中頃～後半：土製祭祀具1点 (人面墨書土器2点) —

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は北陸自動車道小杉インターチェンジ北側 500m、下条川右岸の段丘上から西側の谷平野にかけて立地する。標高は9～10mを測る。昭和57(1982)年～昭和59(1984)年の調査では丘陵下で蛇行する古下条川の支流の一つとみられる旧河道、堰を検出した。旧河道からは、古墳時代の土器、子持勾玉、有孔円板、刀形などの祭祀具と、古代の人面墨書土器、斎串などの律令祭祀具とが出土しており、5世紀～8世紀後半にかけての長期に及ぶ祭祀の場であったと考えられる。遺跡は樹枝状に発達した谷の入り口付近にあたり、谷筋の流れを集めた川跡での祭祀であり、律令祭祀以前の水源や生活に欠かせない水に対してのまつり・祈りの場が、穢れを払う・流す律令的な祭祀の場へと時代や意味合いを変えても、受け継がれてきたことがうかがえる。



第12図 南太閤山 I 遺跡位置図

出土品は人面墨書土器2点で、蛇行する旧河道の覆土および下底面と西側肩部分から出土している。人面墨書土器として、北陸地方での出土初例となったもので、須恵器杯の人面墨書土器は県内での出土例はなく、古代祭祀の一端を物語る重要な資料である。



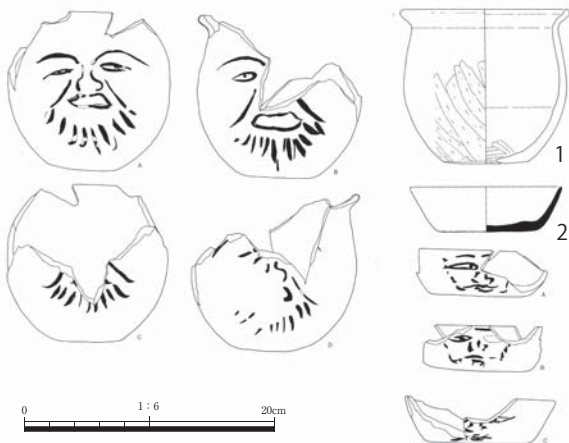
写真9 南太閤山 I 遺跡全景 (東から)

(2) 出土品各説

①土製祭祀具 (1・2) 1は土師器小型甕に人面を描いた人面墨書土器。底部には焼成後、直径約1.5cmの孔が穿孔される。人面は4面に描かれ、眉・目・鼻・口、髭が表現される。顔の輪郭や頭髪、耳は表現されていない。2は須恵器杯。人面は体部外面に3面描かれる。眉・目・鼻・口が表現され、2面は顔の輪郭、あるいは顎鬚・もみあげが破線で表現される。



第13図 南太閤山 I 遺跡遺構平面図 (1/1200)



第14図 南太閤山 I 遺跡出土遺物 (1/6)



写真10 南太閤山 I 遺跡出土遺物



## 6 <sup>あかいみなみ</sup>赤井南遺跡出土品（富山県射水市赤井<sup>あかい</sup>）

－ 8世紀後半～9世紀：土製祭祀具2点（人面墨書土器1点、人面墨書用土器1点）、  
仏教関連遺物1点（水瓶<sup>すいびょう</sup>1点）－

### （1）遺跡と出土品の概要

遺跡は射水平野南西端、庄川および和田川によって形成された扇状地上に位置する。和田川は射水丘陵を蛇行しながら流れ、射水平野を貫流して庄川に合流する一級河川で、遺跡はこの和田川流域に点在する微高地上に立地する。下条川と<sup>かぐらがわ</sup>神楽川に挟まれた標高 6m前後の水田地帯にある。平成22(2010)年の調査で古代道路、溝、土坑、杭列を伴う整地遺構などが検出された。出土遺物は8世紀後半～9世紀を主体とする。2条の道路が交差する付近の整地遺構や道路側溝から人面墨書土器や、土師器椀、須恵器水瓶、瓦などが出土し、道路が交差する「<sup>ちまた</sup>衢」で災いをもたらす<sup>ちみ</sup>魍魎の侵入を防ぐために供物を奉げて<sup>みちあえのみつり</sup>もてなし、追い返す「道饗祭」が行われていたと想定される。

出土品は、道路側溝出土の人面墨書土器と須恵器水瓶である。瓦や木栓が差し込まれた状態の水瓶などの仏教関連遺物も出土しており、律令祭祀と仏教とが重層的に取り入れられていたことを示す重要な資料である。

### （2）出土品各説

①土製祭祀具（1・2） 1は人面墨書土器、2は人面墨書用土器。1・2ともに体部上半はロクロナゲ、体部下半は平行タタキの土師器長胴甕。内面調整は、1は当て具痕をナゲ消し、2は同心円当て具痕を残す。溝肩口からやや下がった地点から破碎された状態で2個体重なって出土した。1は体部外面上半に眉・目・鼻・人中線・口・髭が描かれる。2は欠損部が多く、人面は確認できていないが、出土状況や1と同法量であることなどから人面が描かれていた可能性があり、人面墨書用土器とした。

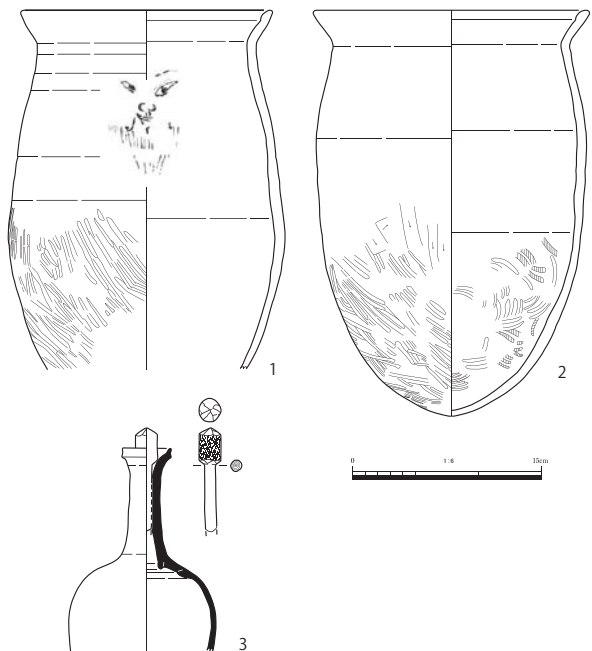
②仏教関連遺物（3） 3は須恵器水瓶。水瓶は仏に浄水を供える供養具で、金属製仏具の写し。器壁は薄く、丁寧な作りである。頸部と胴部の境界内面には二重の粘土接合痕を残す。差し込まれた木栓はヤナギの芯持ち材で、頭部上端を山形に削り、出土時は全周に樹皮が残っていた。挿入部は水瓶の頸部内径に合わせて細く削られる。残存長で8.3cmを測る。



第15図 赤井南遺跡位置図



写真11 赤井南遺跡全景（西から）



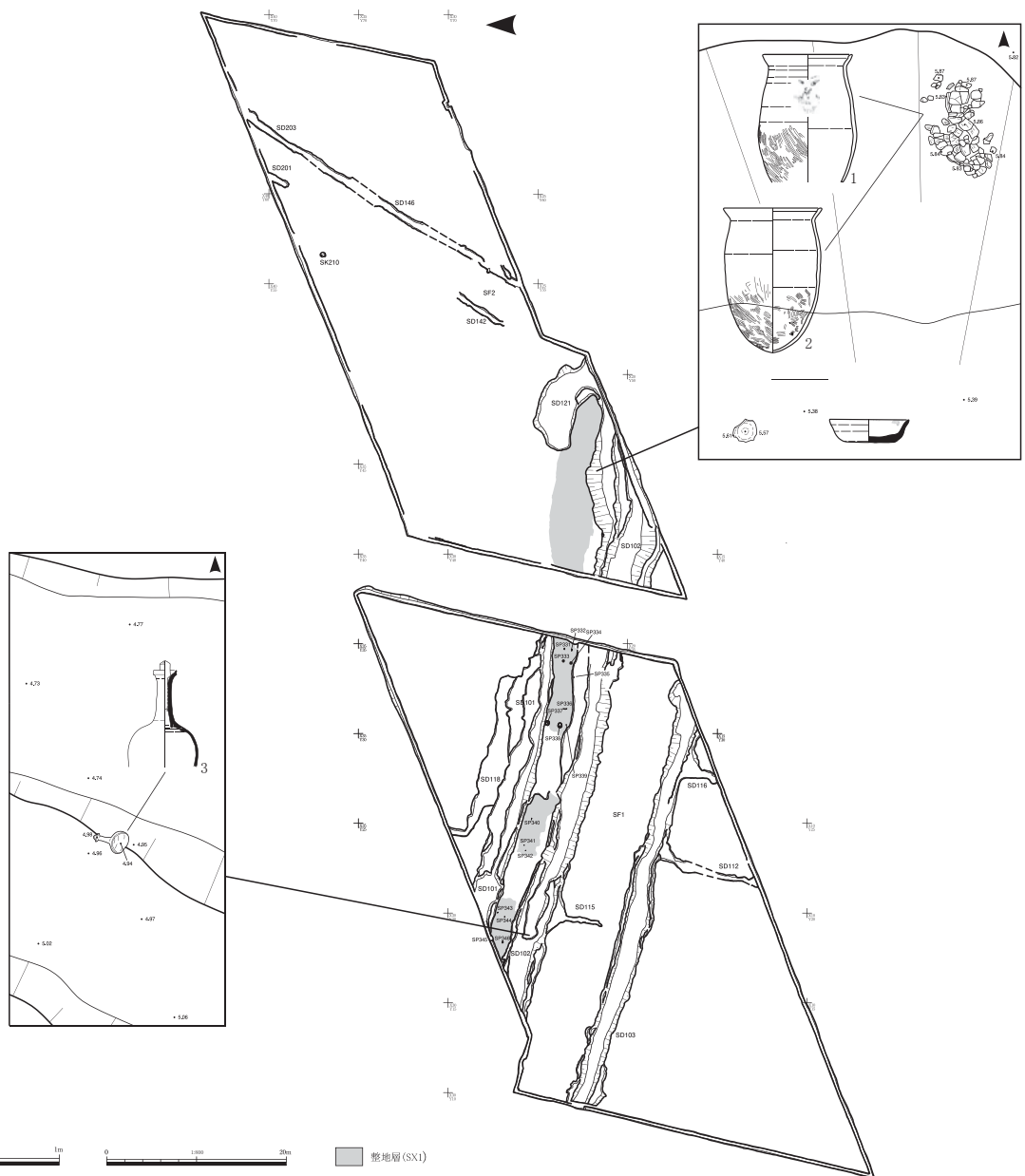
第16図 赤井南遺跡出土遺物（1/6）



写真 12 赤井南遺跡出土遺物 1



写真 13 赤井南遺跡出土遺物 2



第 17 図 赤井南遺跡遺構平面図 (1/800)



## 7 任海宮田遺跡出土品 (富山県富山市任海)

—8世紀前半～10世紀：仏教関連遺物9点 (凸帯付四耳壺1点、稜椀3点、托1点、油煙付着土器1点、奈良三彩1点、瓦塔2点)、地鎮祭祀遺物20点 (土器集中地点一括20点) —

### (1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は富山県の中央部、神通川右岸の扇状地上にあり、神通川とその支流である熊野川の合流地点より約4km南に位置する。南北約1km、東西約900mに及ぶ大きな遺跡で標高は29～34mを測り、北に向かい緩やかに傾斜する。

遺跡は平成7(1995)年以降の大規模発掘調査で竪穴建物214棟、掘立柱建物22棟、礎石建物1棟などが検出された。8世紀前半～10世紀までの存続期間を有する開墾集落で、多量の須恵器、土師器、緑釉陶器のほか瓦塔、奈良三彩火舎などの仏教関連遺物が出土している。また、遺跡中央西よりのC10区では、こうした仏教関連遺物の出土のほか、須恵器杯18点、黒色土器椀2点が、数枚づつ重ねて伏せ並べた状態で出土したSX01があり、地鎮などの祭祀行為の場と考えられ、仏教的な活動を中心とした祭祀行為の場であったと想定される。

出土品は骨蔵器とみられる凸帯付四耳壺や、稜椀や托などの仏具写しの須恵器、奈良三彩、瓦塔などの仏教関連遺物とC10区SX01出土の一括資料で、9世紀中頃には仏教的な活動が定着していたことがうかがえる重要な資料である。

### (2) 出土品各説

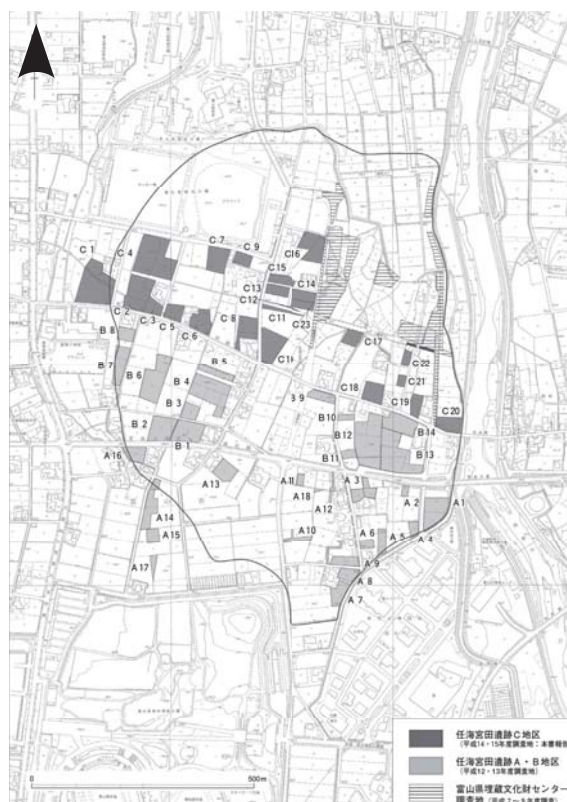
① 仏教関連遺物 (1～9) 1は須恵器凸帯付四耳壺、4・5・7は須恵器稜椀、6は須恵器托、8は油煙土器。1はG地区SD01出土。肩部に凸帯を巡らし、四分割する位置に耳を付け、耳には上から細い棒状工具で孔をあける。6は托。供養の品を入れた椀を載せる器で、金属製仏具の写しとみられる。8は口縁部に油煙が付着する。灯明具として用いられたと考えられるもので、SX01出土土器の12・16・17・19・22～24・27にも口縁部に油煙が付着する。2・3は瓦塔屋蓋部破片。2は土師質。3は生焼けの須恵質で、黄橙色を呈する。瓦塔は五重または七重の木造の塔を模したもので、屋根、柱、組み物などが表現される。土師質のものや、須恵質のものなどがあり、1.5～2.0mほどの大きさが一般的とされる。塔身、屋蓋、九輪、水煙の各部分が焼きわけら



第18図 任海宮田遺跡位置図

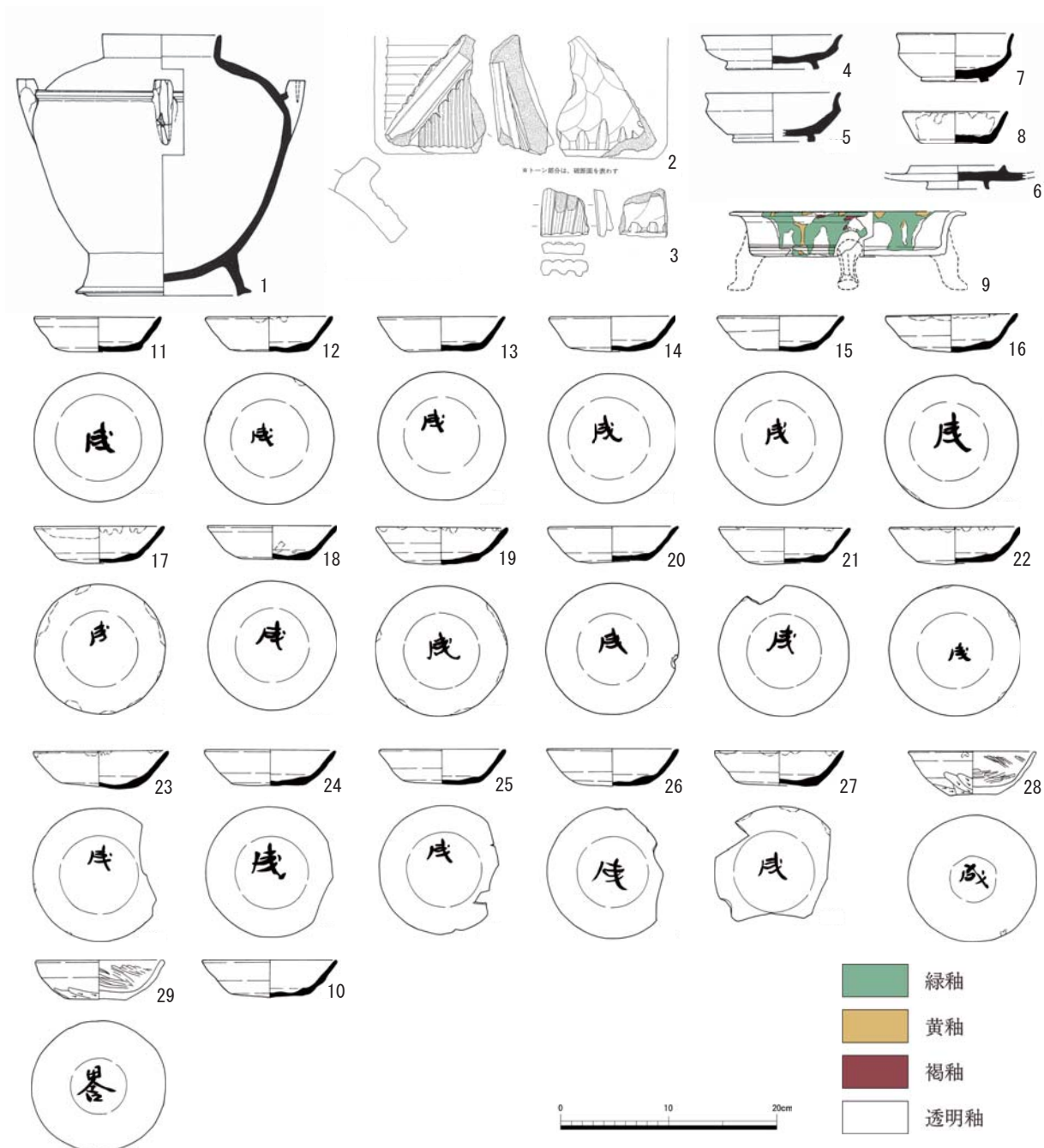


写真14 任海宮田遺跡遺跡全景(北から)



— 15 — 第19図 任海宮田遺跡調査区位置図





第 20 図 任海宮田遺跡出土遺物 (1/6)



写真 15 任海宮田遺跡 C10 区 SX01 出土状況 (西から)



写真 16 任海宮田遺跡出土遺物 1

れる。瓦塔安置目的には寺院建立予定地に建てたもの、木造の大型の塔の代用にしたもの、墓の上に供養塔として建てたものなど諸説がある。9は奈良三彩火舎。平らな底部から体部がほぼ直立し、外屈した口縁部がつく。脚部は4箇所つくと思われる。体部外面下端に3条、底部外縁に1条の沈線が巡る。被熱痕<sup>ひねつこん</sup>の有る破片と無い破片が接合しており、破損後に被熱した可能性がある。奈良三彩は緑色・黄色・白色の釉薬を使う国産の施釉陶器で器種には壺・瓶・鉢・火舎・香炉などがあり、仏教的な様相の濃いものが多い。火舎は仏前に配される仏具の一つで、香をたくのに用いられた供養具。

②地鎮祭祀遺物（10～29） 10～29はC10区SX01一括出土土器。10～27は須恵器杯。口縁部が直線的に開く器形で、ほぼ同一の法量。底部外面に「成」が墨書される。28・29は内面黒色土師器碗で、10～27とほぼ同一法量。内面は丁寧なミガキを施し、黒色処理する。28は底部切り離し後、ケズリを施す。底部外面に「成」が墨書される。29は底部回転糸切り無調整。底部外面に「口舎」の墨書。



写真 17 任海宮田遺跡出土遺物 2

## 8 いしなだきふね 石名田木舟遺跡出土品 (富山県高岡市福岡町木舟<sup>きふね</sup>・小矢部市石名田<sup>いしなだ</sup>)

—7世紀後半～8世紀前半：仏教関連遺物17点(瓦塔<sup>がとう</sup>11点、奈良三彩2点、須恵器4点)—

### (1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は小矢部川と岸渡川に挟まれた河岸段丘上に立地している。標高は22～25mを測り、庄川新扇状地の扇端部に位置する。

遺跡は東西約700mに広がる7世紀中頃から9世紀末の大規模な集落で、竪穴建物7棟、掘立柱建物68棟などが検出されている。遺跡北東端の福岡町調査地区では、7世紀第3四半期の竪穴建物2棟、井戸などが検出された。7世紀後半から8世紀中頃の仏教関連遺物がまるとまって出土し村落内寺院等の存在が想定される。

出土品は瓦塔、奈良三彩などの仏教関連遺物で、特に阿弥陀三尊像や卍崩し高欄は全国的にも珍しく貴重な資料である。

### (2) 出土品各説

①仏教関連遺物(1～17) 1～11は瓦塔。1は初層内陣部箱形壁面の阿弥陀三尊像、2～9は卍崩し高欄部材、10・11は屋蓋部破片で、組合わさり一個体の瓦塔になると思われる。いずれも須恵質で焼成は良好。胎土は緻密。1は三体の仏像を凸状に押し出すように表現したもので、仏と天蓋の周囲は指先でなでる。仏像の一部には彩色されていた痕跡が残る。「阿弥陀三尊像」は、中尊は阿弥陀如来坐像、左脇侍は観音菩薩立像、右脇侍は勢至菩薩立像である。この仏像は、兵庫縣三木市正法寺山出土の仏像と同范である。2～9は束柱・架木・平桁・地覆を交差させて組んだ組二重高欄の部材で、平桁・地覆の間に「卍崩し」の組子を表現する。10・11は屋蓋部裏面破片。12・13は奈良三彩。12は火舎獣脚、13は水瓶口縁部。いずれも小片であるが、分析の結果、近畿出土品に近い奈良三彩である。14～17は須恵器。14は香炉、15・16は水瓶、17は多嘴瓶。14は三彩写しの香炉蓋で、頂部つまみを欠く。天井部に二条の平行沈線を巡らし、その間に2個以上の円窓が穿たれる。15は水瓶口縁部片。16は水瓶底部から肩部破片で、肩部に細い沈線を巡らす。15・16ともに丁寧なナデ調整で光沢がある。金属器模倣の水瓶。17は肩の張る器形で、肩部に小口縁がつく。口縁が5個と想定される多嘴瓶である。



第21図 石名田木舟遺跡位置図

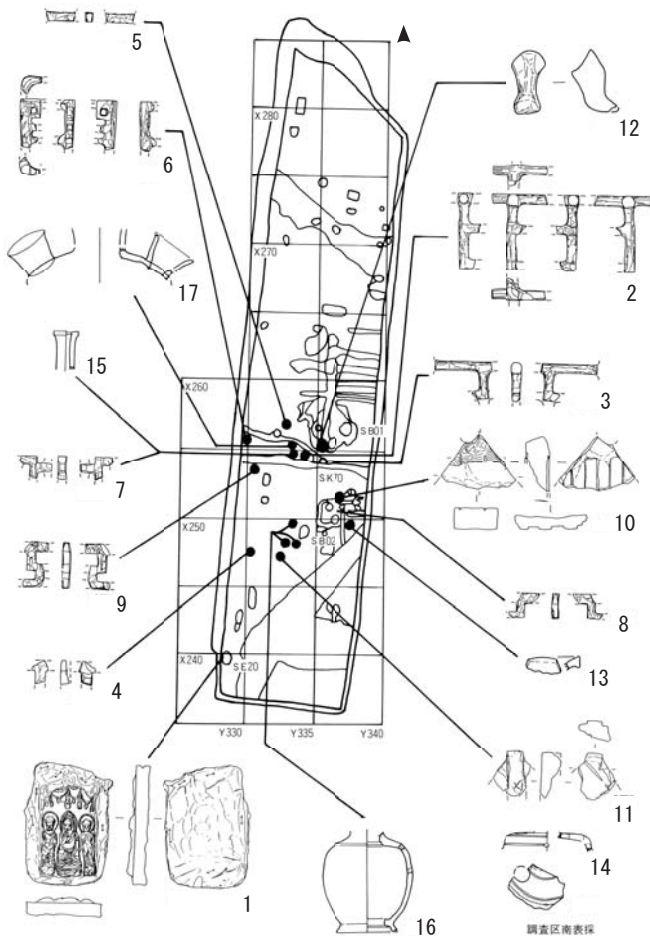


写真18 石名田木舟遺跡全景(北から)



写真19 石名田木舟遺跡出土遺物1





第22图 石名田木舟遺跡出土狀況図 (1/1200)

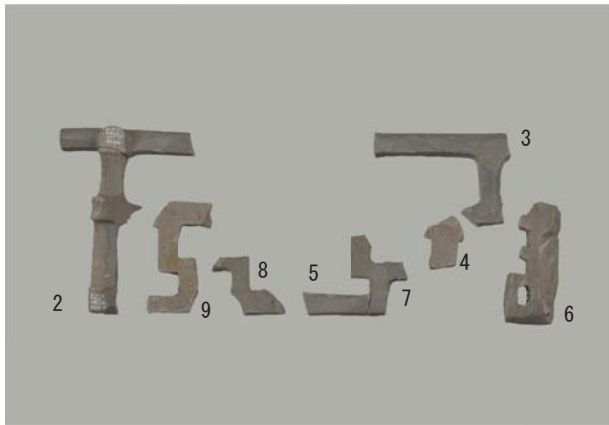
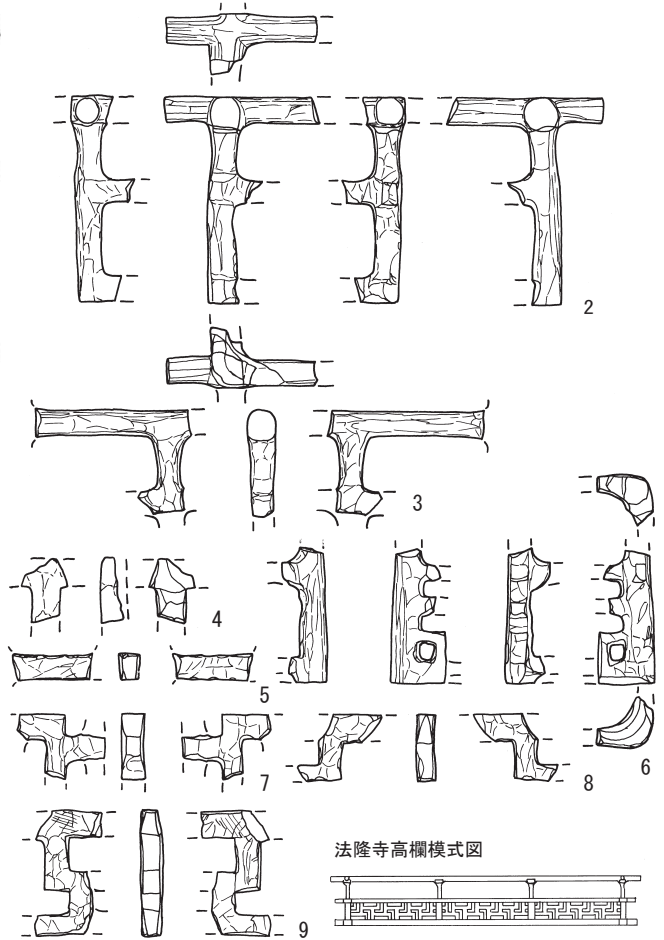
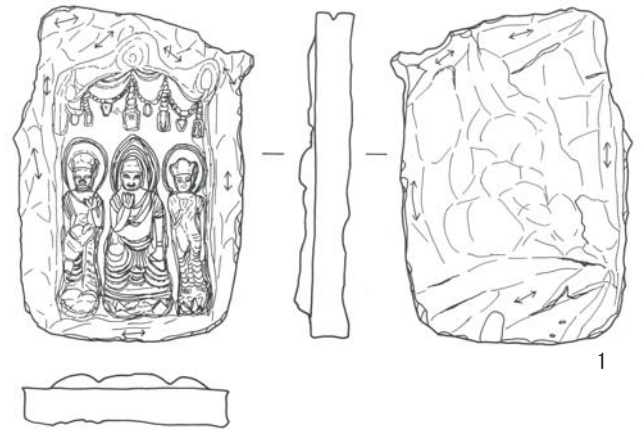


写真20 石名田木舟遺跡出土遺物2



写真21 石名田木舟遺跡出土遺物3



第23图 石名田木舟遺跡出土遺物  
(1~9 1/3, 11~17 1/6)

9 小杉流団No.16遺跡出土品 (富山県射水市青井谷・水戸田)

—8世紀前半～中頃：仏教関連遺物2点（印仏1点、墨書土器1点）—

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は下条川左岸、射水丘陵縁辺部に立地し、東方に張り出す丘陵支脈の基部、丘陵南側斜面から谷頭にかけて位置する。標高15～40mを測る。

遺跡は昭和54(1979)年の第2次、昭和58(1983)年の第6次調査で、須恵器窯2基、工房跡と考えられる竪穴建物、段状遺構、粘土採掘坑などが検出された。出土遺物は8世紀前半～中頃の須恵器組成を代表する資料の他に、鳥形土器、土馬、舟形などの祭祀遺物と、印仏、鉄鉢、寺院名墨書土器などの仏教関連遺物が共伴している。

出土品は印仏と寺院名を記した墨書土器で、須恵器窯や製鉄炉などの生産遺跡とそれを支えた工人集落が数多く立地する地域にあって、仏教関連施設の存在を想定させる貴重な資料である。

(2) 出土品各説

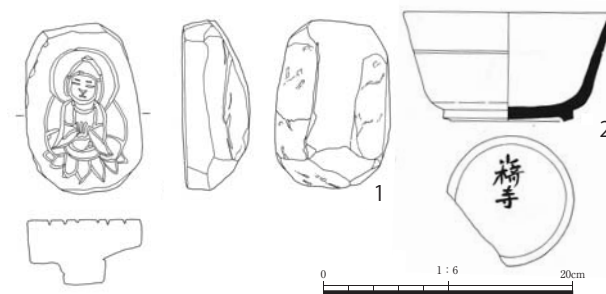
①仏教関連遺物(1・2) 1は印仏。長さ6.4cm、幅4.5cm、厚さ2.5cmの粘土板に仏像を印刻し素焼きしたもの。裏面に把手がつくことから、スタンプ、押し型等と考えられる。仏は如来様の坐像で、<sup>にょらいよう</sup>両手先を腹前で衣に包む。二重円光、蓮華座が表現される。2は須恵器杯。底部外面に「小椅寺」の墨書がある。「椅」は橋の異体字で、寺院名を記したものと考えられる。



第24図 小杉流団No.16遺跡位置図



写真22 小杉流団No.16遺跡全景(東から)



第25図 小杉流団No.16遺跡出土遺物(1/6)



写真23 小杉流団No.16遺跡出土遺物1



写真24 小杉流団No.16遺跡出土遺物2



## 10 小杉流団No.19 遺跡出土品 (富山県射水市青井谷)

—8世紀中頃～後半：仏教関連遺物9点 (陶製相輪<sup>とうせいそうりん</sup>9点) —

### (1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は下条川左岸の射水丘陵北端の台地上に立地する。遺跡は東方に張り出したやせ尾根状の台地の緩斜面および平坦面上に位置し、標高は20～24mを測る。台地の南北両側には小谷が入り込み、遺跡はこの北側の小谷にかけて広がる。小杉流通業務団地内遺跡群の東端に位置する。

昭和60(1985)年の第8次、昭和63(1988)年の第9次調査で、台地上を中心に住居、掘立柱建物、柵、焼壁穴などが検出された。須恵器窯など周辺の生産活動に従事した工人集落と考えられている。出土遺物から8世紀中頃でもやや新しい時期に短期間営まれた集落と考えられ、隣接するNo.18遺跡A・B・C地区、No.20遺跡とはほぼ同時期に営まれた遺跡である。

出土品は陶製相輪で、第6号住居跡周辺を中心に遺跡全体から、約60点の破片が須恵器、土師器などと共に出土している。九輪、擦管、伏鉢、露盤の各部材がそろい、相輪の高さは数mに及ぶ。相輪の全容を押し量ることが出来る資料で、奈良時代の地方における仏教伝播と普及を考える上で貴重な資料である。



第26図 小杉流団No.19 遺跡位置図



写真25 小杉流団No.19 遺跡全景 (北から)

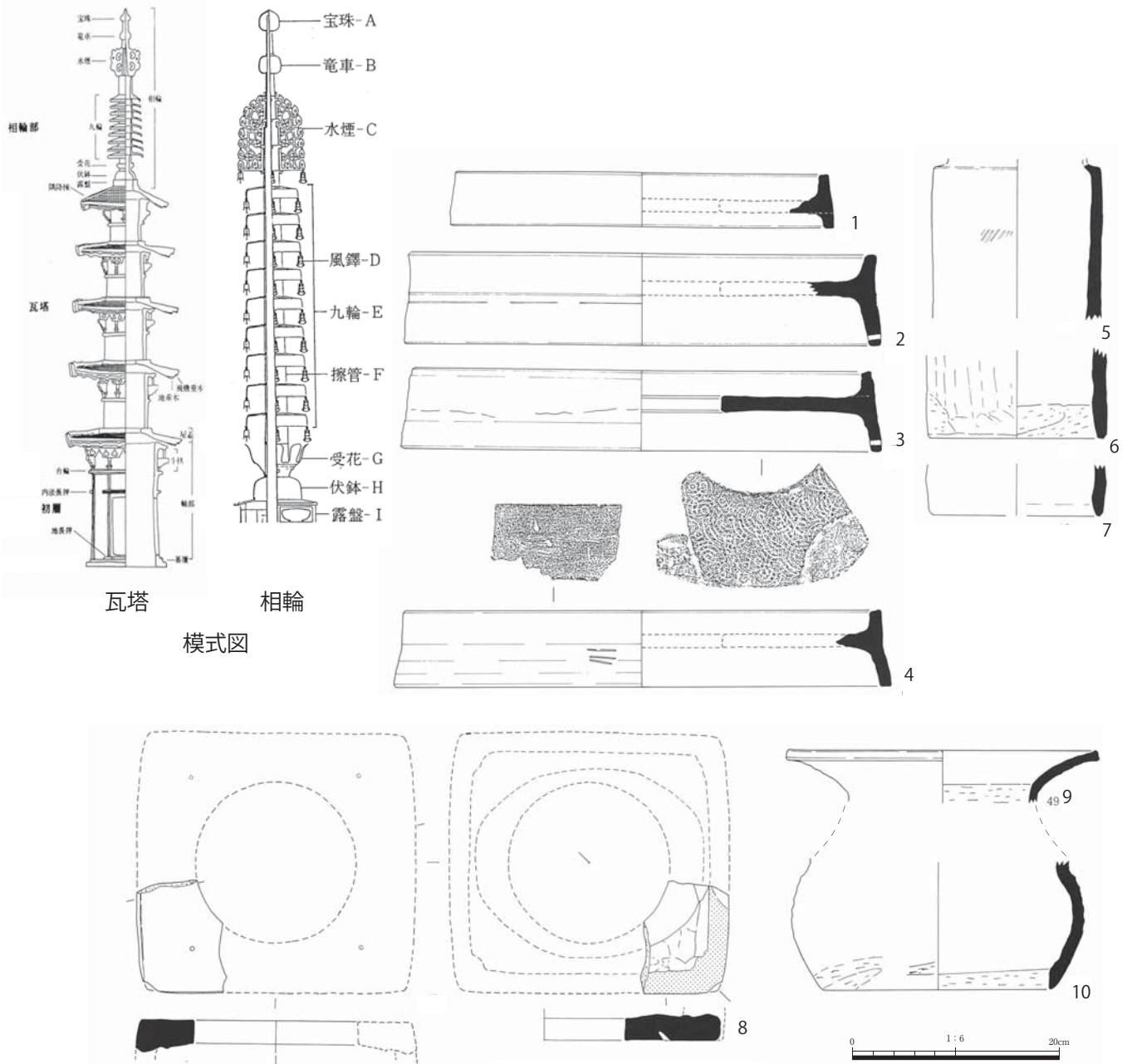


写真26 小杉流団No.19 遺跡出土遺物



(2) 出土品各説

① 仏教関連遺物 (1~10) 1~4 は九輪、5~7 は擦管、8 は露盤、9・10 は伏鉢で、相輪の下部を構成する部材である。1~4 の九輪は、帯状の覆輪と厚さ 1.5 cm 程のドーナツ状の円板を組み合わせている。上面と側面は丁寧なロクロナデを施し、下面は同心円当て具痕が残る。2・3 は側面下端に直径約 4 mm の小孔を貫通させる。この小孔は風鐸を吊るすためのものと考えられている。1 は須恵質で青灰色、2~4 は茶褐色を呈する。5~7 は擦管で、殺管とも書き、相輪の中心を貫く棒状の部分で、円筒形。円筒形の一端は接合用の差し込みのため有段を呈し、もう一方は端部を内外面ともにヘラケズリで仕上げる。5 は外面にロクロナデを施し、一部にタタキ痕が残る。8 は露盤で、一辺約 25 cm の方形となり、中央に直径約 15 cm の円孔が開く。丁寧なナデ調整。方形の隅を結ぶ対角線上に直径約 6 mm の刺突痕が斜めに付けられる。下面側縁には幅約 3 cm の剥離痕が残る。9・10 は伏鉢。10 はロクロナデで、下端はヘラケズリを施す。体部はふくらみを持ち、上端がくびれて外反する。9 は 10 の上端外反部に相当し、受花の受け部となると考えられる。



第 27 図 小杉流団No.19 遺跡出土遺物 (1/6)

第2表 北高木遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1	D-SD100	X89Y87	土師器	小型甕	14.3	13.0	6.2	8C末~9C前	人面墨書 底部穿孔	第101図1322	○		
2	D-SD100	X70Y63	土師器	小型甕	14.3			8C末~9C前	人面墨書	第101図1323	○		
3	D-SD100	X76Y57	土師器	小型甕	13.0			8C末~9C前	人面墨書	第101図1324+1326	○		
4	D-SD100		土師器	小型甕	12.0	12.6	5.2	8C末~9C前	人面墨書用	第101図1327	○		
5	D-SD100		土師器	小型甕	13.2	12.7	6.4	8C末~9C前	人面墨書用 底部穿孔	第101図1328	○		
6	D-SD100		土師器	椀	16.8	5.2		8C末~9C前	赤彩暗文	第99図1274	○		
7	B-SD01		木製品	人形	(6.8)	3.8	0.4	8C末~9C前	頭部のみ	第33図396	○		
8	B-SD01		木製品	人形	(7.6)	1.9	0.4	8C末~9C前		第33図397	○		
9	B-SD01	X77Y60	木製品	人形	(10.8)	2.0	0.3	8C末~9C前		第34図399	○		
10	B-SD01	X76Y58	木製品	人形	13.8	2.1	0.4	8C末~9C前		第34図401	○		
11	D-SD100		木製品	人形	15.9	2.7	0.4	8C末~9C前		第121図1525	○		
12	C-SD100	X73Y75	木製品	人形	16.2	2.4	0.4	8C末~9C前		第121図1526	○		
13	C-SD100	X80Y77	木製品	人形	12.0	2.6	0.4	8C末~9C前		第121図1529	○		
14	C-SD100	X103Y94	木製品	人形	12.4	2.2	0.4	8C末~9C前		第121図1533	○		
15	D-SD100	X94Y90	木製品	人形	13.4	2.8	0.6	8C末~9C前		第122図1540	○		
16	D-SD100	X66Y69	木製品	人形	18.6	2.3	0.6	8C末~9C前		第122図1543	○		
17	D-SD100	X96Y92	木製品	人形	20.5	2.5	0.4	8C末~9C前		第123図1547	○		
18	C-SD100	X80Y77	木製品	人形	(13.1)	1.8	0.3	8C末~9C前		第123図1549	○		
19	D-SD100	X65Y68	木製品	馬形	29.7	3.2	0.7	8C末~9C前		第129図1623	○		
20	D-SD100	X76Y80	木製品	鳥形	36.2	5.5	0.6	8C末~9C前		第129図1629	○		
21	D-SD100	X77Y60	木製品	舟形	9.2	1.6	1.2	8C末~9C前	丸木舟形	第127図1605	○		
22	D-SD100		木製品	舟形	12.7	2.3	1.4	8C末~9C前	丸木舟形	第127図1607	○		
23	D-SD100	X65Y68	木製品	舟形	17.6	3.5	0.9	8C末~9C前		第127図1613	○		
24	D-SD100	X85Y86	木製品	舟形	11.0	2.3	1.7	8C末~9C前	丸木舟形 未成品	第128図1615	○		
25	D-SD100	X97Y93	木製品	舟形	14.1	3.5	2.9	8C末~9C前	丸木舟形	第128図1616	○		
26	D-SD100	X84Y89	木製品	舟形	(20.1)	3.7	2.5	8C末~9C前	丸木舟形 端部欠損	第128図1617	○		
27	D-SD100	X81Y81	木製品	舟形	39.9	6.0	1.4	8C末~9C前	大型	第128図1618	○		
28	D-SD100	X93Y90	木製品	琴形	20.8	3.4	0.5	8C末~9C前		第129図1627	○		
29	D-SD100	X85Y86	木製品	鏡形	(9.3)	4.5	0.4	8C末~9C前		第129図1624	○		
30	D-SD100	X85Y86	木製品	鏡形	20.6	2.3	0.5	8C末~9C前		第129図1630	○		
31	D-SD100	X80Y76	木製品	罌物形	(32.3)	3.0	1.8	8C末~9C前		第129図1628	○		
32	D-SD100	X63Y66	木製品	罌物形	16.8	2.2	1.5	8C末~9C前		第120図1524	○		
33	D-SD100	X85Y86	木製品	摺りささら	18.2	2.2	0.7	8C末~9C前		第130図1635	○		
34	D-SD100	X63Y67	木製品	摺りささら	25.8	3.0	1.2	8C末~9C前		第130図1636	○		
35	D-SD100	X93Y89	木製品	編木ささら	8.5	3.7	0.6	8C末~9C前		第131図1647	○		
36	D-SD100	X114Y87	木製品	編木ささら	8.1	3.2	0.4	8C末~9C前		第131図1652	○		
37	D-SD100	X114Y91	木製品	編木ささら	8.7	3.3	0.7	8C末~9C前		第131図1653	○		
38	D-SD100	X115Y87	木製品	編木ささら	8.4	4.6	0.4	8C末~9C前		第131図1655	○		
39	D-SD100	X75Y57	木製品	編木ささら	11.5	3.3	0.5	8C末~9C前		第131図1656	○		
40	D-SD100	X75Y56	木製品	編木ささら	11.3	2.8	0.6	8C末~9C前		第131図1661	○		
41	D-SD100		木製品	斎串	17.4	2.2	0.6	8C末~9C前	実測図なし	出土品集巻頭 D-139	○		
42	D-SD100	X75Y55	木製品	斎串	15.5	2.6	0.5	8C末~9C前	実測図なし	出土品集巻頭・出土品集8図185 D-199	○		
43	D-SD100		木製品	斎串	50.0	5.1	0.5	8C末~9C前	大型 実測図なし	D-611	○		
44	D-SD100		木製品	斎串	16.3	2.1	0.3	8C末~9C前	実測図なし	出土品集巻頭 D-650	○		
45	D-SD100	X75Y61	木製品	斎串	19.3	2.0	0.7	8C末~9C前	実測図なし	出土品集8図124	○		
46	D-SD100		木製品	斎串	12.6	1.7	0.3	8C末~9C前		第124図1559	○		
47	D-SD100	X81Y82	木製品	斎串	48.4	1.9	0.6	8C末~9C前		第124図1567	○		
48	D-SD100	X114Y87	木製品	斎串	16.0	2.1	0.5	8C末~9C前		第125図1571	○		
49	D-SD100	X72Y62	木製品	斎串	12.0	2.1	0.6	8C末~9C前		第125図1576	○		
50	D-SD100	X92Y89	木製品	斎串	20.1	2.8	0.2	8C末~9C前		第126図1589	○		
51	D-SD100		木製品	木皿	16.5	1.8		8C末~9C前	実測図なし	出土品集巻頭 D-235	○		
52	D-SD100		金属製品	鍬先	18.6	17.0	0.6	8C末~9C前		第133図1681	○		
53	D-SD100		金属製品	鍬	15.7	3.7	0.6	8C末~9C前		第133図1684	○		
54	D-SD100		金属製品	鑰	31.0	18.7	0.9	8C末~9C前	木製の柄	第133図1682	○		
55	D-SD100	X76Y61	須恵器	杯	12.6	3.6	7.0	8C末~9C前	「四」墨書	第103図1349			○
56	D-SD100	X83Y84	須恵器	杯	13.8	3.5	9.4	8C末~9C前	「木」墨書	第103図1356			○
57	D-SD100	X71Y74	須恵器	杯	10.7	4.0	6.8	8C末~9C前	「林」墨書	第103図1357			○
58	D-SD100	X84Y85	須恵器	杯	12.0	4.3	7.1	8C末~9C前	「山」墨書	第103図1361			○
59	D-SD100	X78Y77	須恵器	杯	11.2	4.4	6.4	8C末~9C前	「□□□」墨書	第104図1364			○
60	D-SD100	X75Y77	須恵器	壺			12.0	8C末~9C前	「坎方」墨書	第104図1368			○
61	D-SD100	X71Y73	須恵器	杯蓋	14.4	2.5		8C末~9C前	「成公」墨書	第104図1373			○
62	D-SD100	X74Y76	須恵器	杯蓋	12.0	3.0		8C末~9C前	「□」墨書、則天文字	第104図1374			○
63	D-SD100	X102Y95	須恵器	杯蓋	11.8	2.1		8C末~9C前	「王」墨書	第104図1376			○
64	D-SD100		須恵器	杯	12.7	3.4	7.8	8C末~9C前	「番」「十」墨書	第105図1378			○
65	D-SD100	X67Y69	須恵器	杯	12.0	3.6	8.0	8C末~9C前	「十」墨書	第105図1382			○
66	D-SD100	X94Y89	須恵器	杯蓋	11.8	2.9		8C末~9C前	「十」墨書	第106図1403			○
67	D-SD100	X109Y93	須恵器	杯	11.8	3.6	7.4	8C末~9C前	「不」墨書 打ち欠き	第106図1408			○
68	D-SD100	X85Y86	須恵器	杯	11.6	4.6	6.7	8C末~9C前	「一」刻書	第106図1414			○
69	D-SD100	X74Y58	土師器	椀	12.2	4.1	5.3	8C末~9C前	「富」「佐見御庄」墨書	第107図1416			○
70	D-SD100	X75Y55	土師器	皿	12.2	2.2	5.0	8C末~9C前	「富」墨書	第107図1417			○
71	D-SD100	X77Y58	土師器	椀	16.8	6.1	6.8	8C末~9C前	「富」墨書	第107図1422			○
72	D-SD100	X76Y56	須恵器	杯	13.0	5.9	7.2	8C末~9C前	「富」墨書	第107図1423			○
73	D-SD100	X78Y78	木製品	木簡	(52.0)	2.4	0.3	8C末~9C前	習書木簡「請冠」	第79図731			○
74	D-SD78	X115Y87	木製品	木簡	(41.0)	3.3	0.3	8C末~9C前	習書木簡「道長大神」	第80図732			○
75	D-SD100	X66Y68	木製品	木簡	(42.4)	5.4	0.5	8C末~9C前	帳簿用木簡	第80図733			○
76	B-SD01		木製品	木簡	(13.0)	1.8	0.6	8C末~9C前	出挙木簡	第33図395			○
77	D-SD100		木製品	版木	38.0	21.0	2.0	8C末~9C前		第132図1670			○

※ 41~45、51は実測図なし。出土品集に写真掲載

第 3 表 下佐野遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1	B1-SD015		土師器	壺	19.4	19.4	7.4	8C後～9C前	人面墨書	第2-11図26	○		
2	B1-SD015		土師器	壺	19.2	19.4	6.4	8C後～9C前	人面墨書	第2-11図27	○		
3	D-埋納土坑		土師器	小型壺	9.6	(7.7)		8C後～9C前	人面墨書	第2-64図1201	○		
4	D-SD002		土師器	小型壺	12.2	12.1	7.5	8C後～9C前	馬の墨画土器	第2-64図1200	○		
5	D-SD002	X181Y70	木製品	馬形	15.9	2.4	0.5	8C後～9C後		第2-63図1088	○		
6	D-SD002	X181Y66	木製品	人形	15.4	2.5	0.4	8C後～9C後		第2-58図1001	○		
7	D-SD002	X176Y62	木製品	人形	23.6	3.5	0.3	8C後～9C後		第2-58図1002	○		
8	D-SD002	X181Y66	木製品	人形	32.8	3.2	0.4	8C後～9C後		第2-58図1003	○		
9	D-SD002		木製品	人形	36.3	4.1	0.4	8C後～9C後		第2-58図1005	○		
10	D-SD002	X186Y76	木製品	人形	46.2	3.0	0.2	8C後～9C後		第2-58図1009	○		
11	D-SD002	X181Y75	木製品	人形	35.4	3.3	0.4	8C後～9C後		第2-59図1010	○		
12	D-SD002	X181Y66	木製品	人形	18.3	2.5	0.6	8C後～9C後		第2-59図1011	○		
13	D-SD002	X186Y75	木製品	人形	46.5	3.7	0.3	8C後～9C後		第2-59図1012	○		
14	D-SD002		木製品	人形	51.6	4.5	0.4	8C後～9C後		第2-59図1020	○		
15	D-SD002		木製品	人形	50.6	5.2	0.4	8C後～9C後		第2-59図1022	○		
16	D-SD002		木製品	人形	63.8	6.0	0.5	8C後～9C後		第2-59図1024	○		
17	D-SD002	X189Y78	木製品	斎串	11.7	1.6	0.3	8C後～9C後		第2-61図1048	○		
18	D-SD002	X188Y71	木製品	斎串	15.5	1.4	0.5	8C後～9C後		第2-61図1049	○		
19	D-SD002	X178Y65	木製品	木皿	18.5	1.8		8C後～9C後		第2-60図1039	○		

第 4 表 出来田南遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1	大溝	X39Y20 X40Y21	土師器	小型壺	8.4	7.5		8C後～9C前	人面墨書	第73図551	○		
2	大溝	X35Y24 X35Y21 X38Y20 X33Y22	土師器	小型壺	16.0	15.2	6.7	8C後～9C前	人面墨書	第73図558	○		
3	大溝	X38Y22	木製品	呪符木簡	(18.4)	3.9	0.8	8C後～9C前	「急々如律令」	第78図633	○		
4	大溝	X39Y20	木製品	馬形	20.7	2.4	1.2	8C後～9C前		第82図600	○		
5	大溝	X37Y20	木製品	斎串	(15.1)	2.05	0.3	8C後～9C前		第82図662	○		
6	大溝	X31Y20	木製品	蓋	(18.6)	10.3	2.2	8C後～9C前	ケヤキ	第79図640	○		
7	大溝	X45Y19	木製品	木皿	1.7	18.0	0.5	8C後～9C前	ケヤキ	第79図641	○		

第 5 表 南太閤山 I 遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1	SD03	X2Y17区	土師器	小型壺	13.5	12.4	6.8	8C中～後	人面墨書 底部穿孔	第18図99	○		
2	SD03	X2Y17区	須恵器	杯	12.1	4.6	8.0	8C中～後	人面墨書	第18図100	○		

第 6 表 赤井南遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1	SD102	X21Y45 No.1	土師器	壺	20.0	(28.5)		9C末	人面墨書	第51図17	○		
2	SD102	X21Y45 No.1	土師器	壺	22.0	32.2		9C末	人面墨書用	第51図18	○		
3	SD102	X25Y20 No.1	須恵器	水瓶	3.8	(17.8)		8C後～9C	栓(ヤナギ)	第53図44		○	

第 7 表 任海宮田遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1	G-SD01		須恵器	凸帯付四耳壺	11.0	24.1	14.0	8C後～9C前	骨蔵器か	1996-第18図			○
2		試掘51トレンチ	瓦塔	屋蓋部	11.0	9.4	2.2	8C後～9C前		1996-図版49-775	○		
3	G-SD01		瓦塔	屋蓋部	4.5	4.5	0.9	8C後～9C前		1996-図版49-776	○		
4	C		須恵器	椀	13.0	3.1	8.2	8C後～9C前		1996-図版37-367	○		
5	C		須恵器	椀	12.8	4.5	7.2	8C後～9C前		1996-図版37-368	○		
6	C		須恵器	托	8.8	3.2	5.8	8C後～9C前		1996-図版37-373	○		
7	C8-SD001		須恵器	椀	10.7	4.5	6.2	8C後～9C中		2008-図面283-0175	○		
8	C8-SD001		須恵器	杯	9.6	3.0	6.0	8C後～9C中	油煙付着	2008-図面283-0176	○		
9	C10		奈良三彩	火舎	22.0	4.2	18.0	8C後～8C末		2008-図面295-0621		○	
10	C10-SX01		須恵器	杯	12.2	3.5	7.1	9C後		2008-図面290-0424	○		
11	C10-SX01		須恵器	杯	11.4	3.3	8.2	9C後	「成」墨書	2008-図面290-0431	○		
12	C10-SX01		須恵器	杯	11.6	3.4	7.2	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面290-0432	○		
13	C10-SX01		須恵器	杯	11.6	3.2	7.1	9C後	「成」墨書	2008-図面290-0433	○		
14	C10-SX01		須恵器	杯	11.6	3.3	7.5	9C後	「成」墨書	2008-図面290-0434	○		
15	C10-SX01		須恵器	杯	11.8	3.3	6.8	9C後	「成」墨書	2008-図面290-0435	○		
16	C10-SX01		須恵器	杯	11.6	3.4	7.0	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面290-0436	○		
17	C10-SX01		須恵器	杯	11.8	3.4	7.0	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面290-0437	○		
18	C10-SX01		須恵器	杯	11.8	3.3	6.8	9C後	「成」墨書	2008-図面290-0438	○		
19	C10-SX01		須恵器	杯	12.2	3.5	7.0	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面290-0439	○		
20	C10-SX01		須恵器	杯	12.0	3.3	6.6	9C後	「成」墨書	2008-図面290-0440	○		
21	C10-SX01		須恵器	杯	12.0	3.4	7.0	9C後	「成」墨書	2008-図面290-0441	○		
22	C10-SX01		須恵器	杯	11.6	3.5	7.0	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面290-0442	○		
23	C10-SX01		須恵器	杯	12.8	3.5	7.0	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面291-0443	○		
24	C10-SX01		須恵器	杯	12.0	3.3	6.6	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面291-0444	○		
25	C10-SX01		須恵器	杯	11.6	3.2	7.2	9C後	「成」墨書	2008-図面291-0445	○		
26	C10-SX01		須恵器	杯	11.8	3.8	7.2	9C後	「成」墨書	2008-図面291-0446	○		
27	C10-SX01		須恵器	杯	11.8	3.3	7.5	9C後	「成」墨書 油煙付着	2008-図面291-0447	○		
28	C10-SX01		土師器	椀	11.6	4.0	4.2	9C後	「成」墨書	2008-図面291-0448	○		
29	C10-SX01		土師器	椀	12.0	3.5	5.2	9C後	「口舎」墨書	2008-図面291-0449	○		



第 8 表 石名田木舟遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1	SE20		瓦塔	阿弥陀三尊像	12.6	9.0	1.3	7C後～8C前	兵庫県三木市 正法寺山遺跡出土品と同范	第5図3		○	
2		X254Y333 X253Y331	瓦塔	高欄	8.3	5.9	1.06	7C後～8C前	祀崩し高欄	第6図1		○	
3	SK70		瓦塔	高欄	3.9	6.1	1.06	7C後～8C前	祀崩し高欄	第6図2		○	
4		X248Y331	瓦塔	高欄	2.7	1.8	0.9	7C後～8C前	祀崩し高欄	第6図3		○	
5		X257Y330	瓦塔	高欄	0.9	3.0	0.9	7C後～8C前	祀崩し高欄 7と接合	第6図4		○	
6		集中区No.53	瓦塔	高欄	5.4	2.3	1.06	7C後～8C前	祀崩し高欄	第6図5		○	
7		X255Y334	瓦塔	高欄	2.7	3.5	0.9	7C後～8C前	祀崩し高欄 5と接合	第6図6		○	
8	SB1		瓦塔	高欄	2.7	3.5	0.6	7C後～8C前	祀崩し高欄	第6図7		○	
9		X254Y331	瓦塔	高欄	5.2	2.6	0.9	7C後～8C前	祀崩し高欄	第6図8		○	
10		X252Y338	瓦塔	屋蓋部	6.0	7.7	2.57	7C後～8C前		第5図1		○	
11		X248Y333	瓦塔	屋蓋部	5.15	3.63	2.12	7C後～8C前		第5図2		○	
12		X256Y336	奈良三彩	火舎	4.6	2.5	2.2	8C前～中	獣脚	第5図5		○	
13		X250Y331	奈良三彩	水瓶				8C前～中		第5図4		○	
14		表探	須恵器	香炉				7C後～8C中		第7図2		○	
15		X255Y333	須恵器	水瓶	5.2			7C末～8C前		第7図1		○	
16		X248Y331 X250Y338 X249Y333	須恵器	水瓶			12.0	7C末～8C前		第7図3		○	
17		X256Y333	須恵器	多嘴瓶				8C中～後		第7図4		○	

第 9 表 流団No.16遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1			土製品	印仏	6.4	4.5	2.5	8C前～中		6次-17図1			
2	谷		須恵器	杯	16.5	8.6	9.0	8C前～中	「小椅寺」墨書	6次-17図6		○	

第 10 表 流団No.19遺跡出土品一覧

No.	出土地点		種類	器種	法量 (cm)			時期	備考	報告番号	性格		
	遺構	地点			口径 (長さ)	器高 (幅)	底径 (厚さ)				祭祀	仏教	その他
1		X6Y7区	陶製相輪	九輪	35.5	5.2	36.5	8C中～後	須恵質	8次-18図91		○	
2		X6Y7区	陶製相輪	九輪	44.0	8.8	45.2	8C中～後		8次-18図92、98		○	
3	第6号住居跡 第7号住居跡	X6Y7区、X6Y5区	陶製相輪	九輪	43.6	7.8	45.6	8C中～後		8次-18図93、9次-10図2		○	
4		X6Y7区	陶製相輪	九輪	45.5	7.2	47.2	8C中～後		8次-18図94		○	
5		X6Y7区	陶製相輪	擦管	(13.0)		(16.0)	8C中～後		8次-18図95		○	
6		X6Y7区	陶製相輪	擦管			(16.8)	8C中～後		8次-18図96		○	
7		X6Y7区	陶製相輪	擦管			(16.0)	8C中～後		8次-18図97		○	
8		X6Y7区	陶製相輪	露盤	(25.8)			8C中～後		8次-18図99		○	
9		X6Y7区	陶製相輪	伏鉢	32.0			8C中～後	受花の可能性 10と復元	8次-18図100		○	
10		X6Y7区	陶製相輪	伏鉢			21.0	8C中～後	9と復元	8次-18図111		○	

参考文献

荒井秀規 2021 「講演録 北陸の面人墨書土器と東国の面人墨書土器」『富山市考古資料館紀要』第 40 号 富山市考古資料館

池野正男 2011 「古代集落における仏教施設と関連遺物」『大境』第 30 号 富山考古学会

池野正男 2016 「越中における古代前半の祭祀－一律令祭祀遺物を中心として－」『大境』第 35 号 富山考古学会

内田律雄 2006 「古代村落祭祀と仏教」『在地社会と仏教』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

金子裕之 1996 『日本の美術 5 第 360 号 まじないの世界 I (縄文～古代)』至文堂

金子裕之編 1998 『日本の信仰遺跡』奈良国立文化財研究所学報第 57 冊 奈良国立文化財研究所

菊池康明編 1991 『律令制祭祀論考』塙書房

久保智康 2004 「仏教遺物からみた北陸の古代寺院」『奈良時代の富山を探る フォーラム全三回の記録』富山市教育委員会

国立歴史民俗博物館 1985 『古代の祭祀と信仰』国立歴史民俗博物館研究報告第 7 集

鈴木規夫 1989 『日本の美術 12 第 283 号 供養具僧具』至文堂

高岡市教育委員会 2001 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』高岡市埋蔵文化財調査報告第 7 冊

巽淳一郎 1996 『日本の美術 6 第 361 号 まじないの世界 II (歴史時代)』至文堂

富山県埋蔵文化財センター 2014 『北高木遺跡出土品集』富山県出土の重要考古資料 8

奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代編』

堀沢祐一 2009 「越中国の祭祀・仏教関係遺跡と遺物」『古代の越中』環日本海歴史民俗学叢書 13 古志書院



富山県出土の重要考古資料 14

## とやまの古代祭祀遺跡等出土品

北高木遺跡  
下佐野遺跡  
出来田南遺跡  
南太閣山 I 遺跡  
赤井南遺跡  
任海宮田遺跡  
石名田木舟遺跡  
小杉流団No.16遺跡  
小杉流団No.19遺跡

発行日 令和4年3月31日

編集・発行 富山県埋蔵文化財センター  
〒930-0115 富山市茶屋町206番3号

印刷 株式会社北陸製版センター